



2008 年度事業内容

- 社会医療法人敬和会
大分岡病院

目次

経営理念	4
病院運営状況	4
事業所概要	4
沿革	4
組織図	6
年間行事	7
承認及び届出関係	8
資源表	9
設置基準	9
教育研修指定関係	10
統 計	10
医事統計	10
手術・処置 統計	14
退院患者統計	18
診療部活動	22
医師スタッフ	22
分子共鳴研究所	22
外科	22
救急科	22
形成外科	23
呼吸器科	23
歯科口腔外科 (マキシロフェイシャルユニット)	23
循環器科	27
小児科	29
心臓血管外科	30
整形外科	30
脳神経外科	30
皮膚科	30
放射線科	30
麻酔科	30
看護部活動	30
看護部委員会活動	31
看護部部署別目標	33
コメディカル部門活動	38
臨床検査室	38
栄養部	40
ME部	41
放射線部	42
薬剤部	43
リハビリテーション部	44
委員会活動	46
医療安全委員会	47
感染管理委員会	48
薬事審議委員会	50
治験審査委員会	51
臨床検査適正化委員会	52
輸血療法委員会	53
褥瘡対策委員会	53
事務部門	54

医事課.....	54
総務・人事部.....	55
購買物流部.....	55
診療情報管理部.....	57
広報・マーケティング部.....	57

経営理念

一人一人に宿る、かけがえのない尊い「生命」に思いを致し、その尊厳性に対して合掌し、人生という大きな輪の中で、また、地域社会の中で、大きく合い和し、共に生きることを 根本理念とする。

1. 人間性の尊重(Hospitality)
2. 規律と責任(Order)
3. 思いやりと信頼(Kindness)
4. 前進と創造(Advance)
5. 人生の灯(Luminous Lives)

病院運営状況

病床利用率 (%) = 年延入院患者数 / 年延病床数 = 63,485 / 8,4315 = 75%

1日平均患者数 (人) 入院 = 年延入院患者数 / 入院診療日数 = 63,485 / 365 = 173.9

外来 = 年延外来患者数 / 外来診療日数 = 65,458 / 365 = 179

外来入院患者比率 (%) = 年延外来患者数 / 年延入院患者数 = 65,458 / 63,485 = 1.03

患者1人1日当り診療収入 (円) 入院収入 = 入院請求額 / 年延入院患者数 = 55,871

外来収入 = 外来請求額 / 年延外来患者数 = 13,563

事業所概要

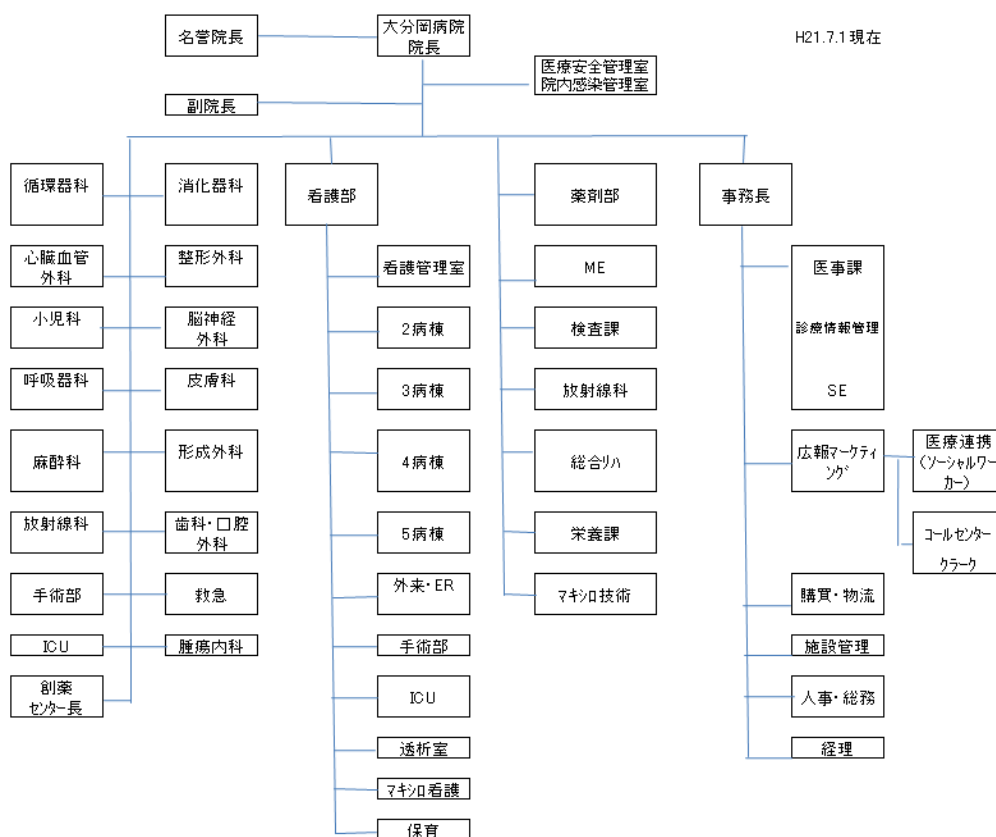
沿革

昭和29年5月22日	岡医院開設 (8床) 院長 岡宗由 (産科、婦人科、外科)
昭和31年2月13日	岡医院 (19床) 増床
昭和38年7月11日	大分岡病院 (40床) 開設・・・診療所から病院へ
昭和39年6月2日	救急病院告示承認
昭和39年9月9日	大分岡病院 (61床) に増床
昭和41年4月17日	大分岡病院 (80床) に増床
昭和43年4月1日	姫野研三副院長就任
昭和45年12月25日	X線テレビ (日立DR-125VT) 導入
昭和56年4月7日	頭部CTスキャナー (東芝TCT-30) 導入
昭和57年1月12日	大分岡病院内温泉掘削工事
昭和58年3月22日	大分岡病院 (110床) に増床
昭和59年10月25日	大分岡病院 (140床) に増床
昭和61年4月1日	立花秀俊医師就任 (小児科部長)
昭和62年12月21日	大分岡病院 (180床) に増床
平成元年1月23日	医療法人敬和会設立 (代表者理事長 岡宗由)
平成2年11月1日	基準看護 (基本) 承認
平成3年10月1日	基準看護特I類承認
平成4年8月1日	基準看護特II類承認
平成5年5月1日	基準看護特III類承認
平成6年10月1日	大分岡病院院長 姫野研三就任
平成7年6月9日	訪問看護ステーション開設
平成7年9月8日	老人保健施設大分豊寿苑開設

平成8年10月1日	ヘリカルCT導入（東芝）
平成9年5月1日	病児保育センターひまわり開設（大分市委託幼児デイサービス）
平成10年4月1日	新看護承認（2.5：1看護（A）, 10：1補助）
平成10年11月1日	大分岡病院（211床）に増床
平成10年11月30日	東芝デジタルアンギオシステム導入
平成10年12月3日	MRI（シーメンス旭メディック）導入
平成11年1月1日	高気圧酸素治療装置導入
平成11年2月12日	透析室の開設
平成11年7月1日	大分岡病院（222床）に増床
平成12年4月1日	介護保険始まる。居宅介護支援事業所開始
平成12年4月1日	外来調剤を外部調剤薬局に委託 大分岡病院二次救急病院としての指定
平成12年10月2日	形成外科外来新設
平成12年10月3日	誤投薬防止システム導入
平成13年2月1日	地域連携室設置
平成13年4月1日	診療情報管理管理加算を算定開始
平成13年5月1日	脳神経外科標榜
平成13年7月1日	ブッチャー方式ハウスキーピング導入
平成13年10月1日	開放型病院認可（5床）
平成14年1月1日	総合リハビリテーション認可
平成14年2月1日	シーメンスRI装置導入
平成14年3月12日	大分岡病院一般病床222床から231床に変更
平成14年6月1日	新看護承認（2：1看護）
平成14年9月30日	日本医療機能評価機構病院認定Ver3.1
平成15年1月1日	大分岡病院院長 岡敬二就任 副院長 立川洋一、総院長 姫野研三就任
平成15年3月1日	副院長 岡治道就任
平成15年5月24日	コールセンター開設
平成15年6月25日	大分サイバーナイフがん治療センター棟の完成
平成15年7月1日	創薬センター開設
平成15年7月16日	地域リハビリテーション支援体制整備推進事業協力の承諾
平成15年9月1日	ICU（6床）設置
平成15年10月1日	薬局クリーンベンチ運用開始
平成15年10月1日	電子レセプト開始
平成15年10月30日	大分岡病院、管理型臨床研修病院に指定
平成16年1月1日	日本救急医学会認定医指定施設
平成16年2月1日	創傷ケアセンター開設
平成16年4月1日	電子カルテ導入
平成16年6月1日	リンパ浮腫治療室開設
平成16年7月1日	DPC調査協力開始
平成16年7月7日	休診日の変更（木曜日午後休診→土曜日午後休診）
平成16年11月1日	NST稼働施設認定
平成16年11月10日	放射線治療（サイバーナイフII）の使用開始
平成17年2月16日	マキノ・フェイシャルユニット開設
平成17年12月1日	マルチスライスCT16列よりマルチスライスCT64列（シーメンス）に更新
平成18年1月12日	第1回大分岡病院学会
平成18年2月1日	大分岡病院心血管センタースタート
平成18年4月1日	大分東部病院開設（77床）院長 下田勝弘
平成18年4月1日	DPC対象病院 日本形成外科学会教育関連施設認可（大分岡病院）
平成18年8月1日	病理解剖室設置
平成18年10月5日	地域医療支援病院の名称使用許可

- 平成 18 年 12 月 1 日 ヘリカルCT (東芝) よりマルチスライスCT16 列 (シーメンス) に更新
- 平成 19 年 1 月 1 日 大分岡病院全館禁煙スタート
- 平成 19 年 4 月 1 日 医療法人敬和会理事長 岡敬二就任 大分岡病院院長 葉玉哲生就任
大分岡病院 毎週土曜日休診
- 平成 19 年 4 月 16 日 敬和会託児所「敬和会ふたば保育園」開設
- 平成 19 年 5 月 1 日 看護体制 7 : 1 運用開始
- 平成 19 年 5 月 20 日 第 2 回敬和会合同学会
- 平成 19 年 6 月 1 日 MRI1.0T より 1.5T に更新 (シーメンス)
- 平成 19 年 7 月 1 日 大分岡病院敷地内禁煙、これに伴い「禁煙外来保険適用」
- 平成 19 年 8 月 21 日 日本医療機能評価機構受審 (Ver5)
- 平成 20 年 4 月 1 日 柳澤名誉院長就任 (歯科口腔外科)
- 平成 20 年 4 月 19 日 災害時救急患者対応訓練
- 平成 20 年 6 月 「外来化学療法」診療開始 (第 1.3 火曜日)
- 平成 20 年 7 月 1 日 患者用図書室「からだ情報室」開設
- 平成 20 年 8 月 インドネシア看護師候補者の受入れ 2 名決定 (H21. 2. 13 から就任)
- 平成 20 年 10 月 19 日 敬和会合同TQM合同研修会
- 平成 20 年 11 月 8 日 日本フットケア研究会を開催 (岡敬二理事長大会会長)
- 平成 21 年 2 月 インドネシア看護師候補者 2 名の受入れ
- 平成 21 年 3 月 27 日 地域連携協議会
- 平成 21 年 3 月 30 日 大分DMAT病院指定

組織図



年間行事

2008年4月

- ・新入職員の入社式 24名 (4/1)
- ・敬和会合同歓迎会 (お花見会) (4/3)
- ・新入職員合同研修 (～4/4 まで)
- ・第1回大分岡病院災害医療訓練 (4/19)
- ・第8回大分マティアルコンソーシアム「連携事務者の役割と可能性」 (4/19)
- ・新医師臨床研修病院説明会 (4/26)
- ・大分岡病院透析患者総会 (4/27)
- ・第8回CPC(4/28)

2008年5月

- ・第3回敬和会合同学会：ルレユ (5/11)
- ・第9回大分マティアルコンソーシアム (5/17)
- ・春季防災訓練 (5/22)
- ・第3回心血管センター市民公開講座：音の泉ホール (5/25)
- ・第3回褥瘡ケア地域勉強会 (5/27)

2008年6月

- ・第10回大分マティアルコンソーシアム (6/14)
- ・第12回中部圏域地域ケア研修会「認知症の方を地域で支えていくために」 (6/15)
- ・韓国訪問団敬和会視察 (6/17)
- ・医療安全全体研修 (6/26)
- ・倫理教育研修 (板井先生：宮崎大医学部) (6/28)

2008年7月

- ・患者用図書館「からだ情報室」オープン (7/1)
- ・感染管理全体研修会 (7/3)
- ・臨床研修病院合同説明会 (7/26) 大分

2008年8月

- ・敬和会合同供養祭 (8/21)
- ・第12回大分マティアルコンソーシアム (8/23)
- ・本場鶴崎おどり (8/23)
- ・管理者上級研修「コーチングと目標管理の為の研修会」 (8/30)

2008年9月

- ・第4回心血管センター市民公開講座：鶴崎公民館 (9/7)
- ・来年度新卒看護師採用試験 (9/13)
- ・職員健康診断 (9/16～26)
- ・中級者研修「目標管理」 (9/26)

2008年10月

- ・敬和会 TQM 合同研修会 (10/19)
- ・第14回大分マティアルコンソーシアム (10/25)
- ・第13回中部圏域地域ケア研修会「転倒予防教室の開き方」 (10/26)
- ・第3回敬和会健康フェスタ (10/26)

2008年11月

- ・第5回日本フットケア学会大分大会 (大会会長：岡敬二) (11/8)
- ・地域医療支援病院運営委員会 (11/12)
- ・医療安全全体研修 (11/13)
- ・秋季防災訓練 (11/13)
- ・口唇口蓋裂親の会 (11/13)
- ・第14回ヤング・フィジシャンズカンファレンス (11/18)
- ・九州 PT. OT 合同学会 (別府ヒューコン) (11/22)

- ・大分県病院学会（11/24）
- ・敬和会理事会（11/26）

2008年12月

- ・倫理研修（中級者）：板井先生（12/7）
- ・第5回心血管センター市民公開講座：竹田市（12/7）
- ・第16回大分メディカルコンソーシアム（12/13）
- ・敬和会合同忘年会（12/17）
- ・年内仕事納め（12/30）

2009年1月

- ・心血管センタースタートアップミーティング（1/5）
- ・TQM院内カウント（1/13）
- ・第17回大分メディカルコンソーシアム（1/28）

2009年2月

- ・大分市保健所立入調査（2/4）
- ・感染管理全体研修会（2/13）
- ・インドネシア人看護師候補者2名着任（2/13）
- ・院内研究発表会（2/10～2/18）
- ・第14回中部圏域地域研修会「お口のお手入れと安全な食べ方」（2/22）

2009年3月

- ・レジナビフェア（研修医のための合同セミナー）（3/20）
- ・敬和会管理者研修（目標設定）（3/20）
- ・新入職員職場実習（3/16～27）
- ・地域連携協議会（3/27）
- ・職員健康診断（3/16～27）
- ・第6回心血管センター市民公開講座：豊後大野市（3/29）
- ・第15回ヤングフイジション・カンファレンス（3/31）

承認及び届出関係

病床 総数 231床

A. 基本診療関連

一般病棟入院基本料7:1、地域医療支援病院、開放型病床（5床）、重症者等療養環境特別加算 臨床研修病院入院診療加算（管理型）、救急医療管理加算 医療安全対策加算、乳幼児救急医療管理加算、電子化加算（歯科）、療養環境加算 特定集中治療管理料、褥瘡患者管理加算、ニコチン依存症管理料、外来化学療法加算2、検体管理加算（I）、後期高齢者退院調整加算、後期高齢者総合評価加算、医療機器安全管理料1、医師事務作業補助体制加算（50対1）

B. 手術関連

経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈ステント留置術、
経皮的冠動脈形成術（高速回転式経皮的経管アテレクトミーカテーテルによるもの）
経皮的冠動脈血栓除去術 大動脈バルーンポンピング法（IABP法）、
内視鏡下椎弓切除術、ペースメーカー移植術、埋込型除細動器移植術・交換術、
両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術・交換術、補助人工心臓、
観血的関節受動術、麻酔管理料
先進医療：エキシマレーザー冠動脈形成術

C. 放射線科

マルチスライスCT、MRI（1.5テラ以上）、冠動脈CT撮影加算、心臓MRI撮影加算、
画像診断管理加算（2009年7月取下げ）

D. 薬剤科 薬剤管理指導料、無菌製剤処理加算

E. リハビリテーション科

脳血管疾患リハビリテーション（I）運動器リハビリテーション（I）
呼吸器リハビリテーション（I）心大血管疾患リハビリ（I）

F. 栄養課 入院食事療養（I） 栄養管理実施加算

G. 診療情報部 診療情報管理体制加算

H. 歯科

地域歯科支援病院歯科初診料、補綴物維持管理料、顎口腔機能診断料、歯科矯正診断料

資源表

A. 放射線科

- CT(医用X線CT装置)2台○MRI(磁気共鳴画像診断装置)○骨密度測定装置
- R I(診断用核医学装置)○ポータブルX線撮影装置(3台)○血管造影システム
- DR装置○X線一般撮影装置(2台)○超音波画像診断装置
- 定位放射線治療装置(サイバーナイフ)(1台)

B. 検査科 生理検査

- 心エコー診断装置○心電図○ホルター心電図○負荷心電図(トレッドミル、エルゴメー)
- 脳波○肺機能自動測定装置○眼底カメラ○眼圧計○APG(下肢静脈瘤)
- ABI(動脈硬化)○睡眠時無呼吸検査装置(SAS)○誘発電位検査(ABR, LEP, LCC)
- 皮膚灌流圧測定装置(SPP) C. 生化学検査○生化学自動分析装置
- 多項目自動血計測装置○血液ガス分析装置○尿自動処理装置
- 蛋白質分画装置(血清検査)○免疫血清自動分析装置(細菌検査)
- 細菌自動分析装置(血液検査)○凝固計

D. 内視鏡

- 胃カメラ(5台)○気管支鏡(2台)○大腸カメラ(4台)○十二指腸ファイバー(1台)

E. ME 部

- 人工透析装置(25台)○持続緩徐式血液濾過装置(1台)○人工呼吸器(7台)
- 高気圧酸素治療器(2台)

F. OP 室

- 内視鏡手術一式(1セット)○Cアームイメージング装置(2台)
- 関節鏡手術一式(1セット)○麻酔器(3台)○人工心肺装置一式(1セット)
- 経皮の心肺補助装置(1台)○メトリックス手術一式(1セット)○蒸気滅菌装置(2台)
- アイオン(メトリックスナビゲーションシステム)(1セット)
- エチレンオキサイトガス(1台)○超音波メス(1台)○結石破碎装置(EHL)(1台)
- ハーモニック(1台)○モニター(3台)○電気メス(3台)○自動記録装置(2台)
- シェーバー(1台)○超音波洗浄器(1台)○ペーパー(1台)

設置基準

保険医療機関

地域医療支援病院

第二次救急指定病院

開放型病院

小児慢性特定疾病治療研究事業受託

管理型新医師臨床研修指定病院

原爆被爆者健診委託契約

労災保険指定病院

労災保険二次健診等給付医療機関

腎摘出協力医療機関

結核予防法指定病院

生活保護法指定病院

助産施設

特定疾患治療研究事業受託

指定自立支援医療機関(心臓機能に関する医療、歯科口腔外科に関する医療、形成外科に関する医療)

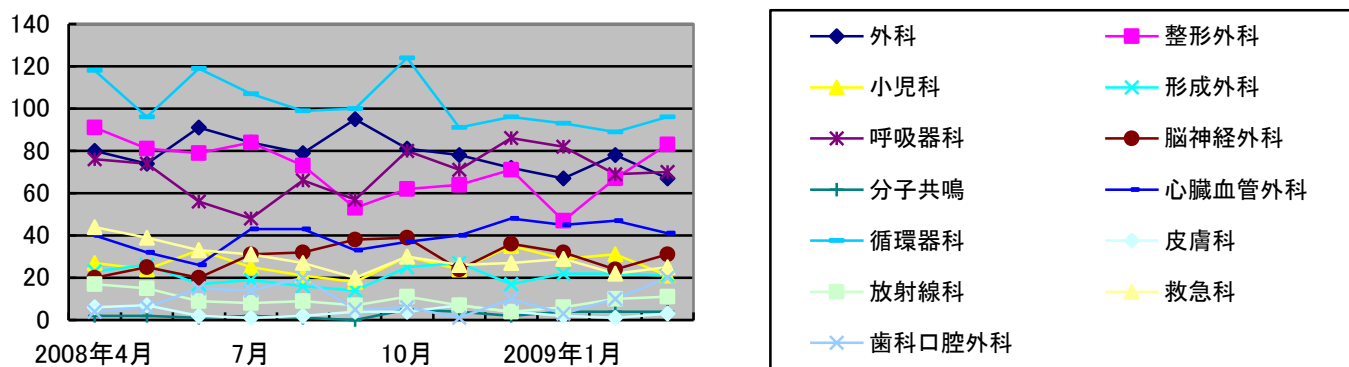
救急科専門医指定施設
 放射線科専門医修練機関
 日本皮膚科専門医研修施設
 日本形成外科学会教育関連施設
 日本外科学会外科専門医制度修練施設
 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
 日本消化器外科学会修練関連施設
 日本大腸肛門病学会関連施設
 日本整形外科学会専門医研修施設
 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）可動施設
 日本口腔外科学会専門医制度指定研修機関
 日本循環器学会専門研修施設
 心臓血管外科専門医認定関連施設
 麻酔科認定病院

統計

医事統計

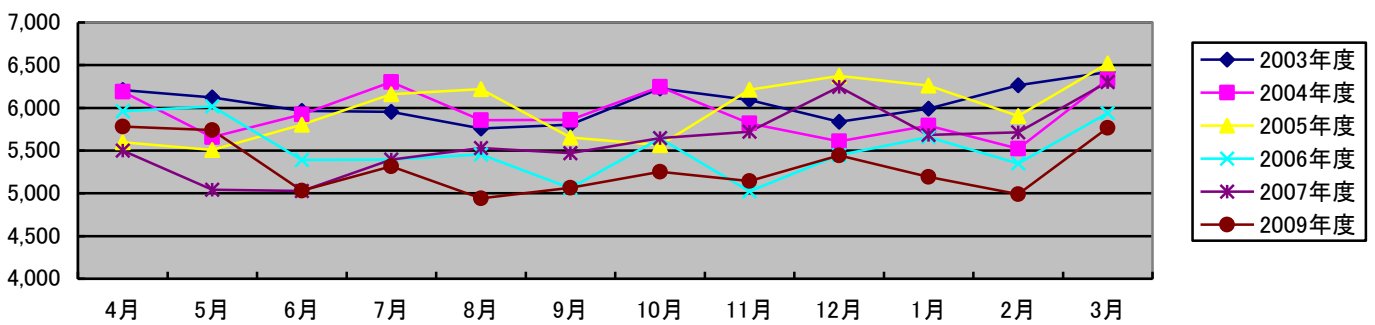
診療科別入院患者数

	外科	整形外科	小児科	形成外科	呼吸器科	脳神経外科	分子共鳴	心臓血管外科	循環器科	皮膚科	放射線科	救急科	歯科口腔外科
2008年4月	80	91	27	23	76	20	2	40	118	6	17	44	4
5月	74	81	24	26	74	25	2	32	96	7	15	39	6
6月	91	79	33	17	56	20	1	26	119	2	9	33	15
7月	84	84	25	19	48	31	2	43	107	1	8	31	14
8月	79	73	21	16	66	32	1	43	99	2	9	27	20
9月	95	53	18	14	57	38	0	33	100	4	7	20	5
10月	81	62	30	25	80	39	5	37	124	4	11	30	6
11月	78	64	24	27	71	24	4	40	91	7	7	26	1
12月	72	71	35	17	86	36	2	48	96	4	4	27	10
2009年1月	67	47	29	22	82	32	4	45	93	2	6	29	3
2月	78	67	31	22	69	24	4	47	89	1	10	22	10
3月	67	83	21	21	70	31	4	41	96	3	11	25	20



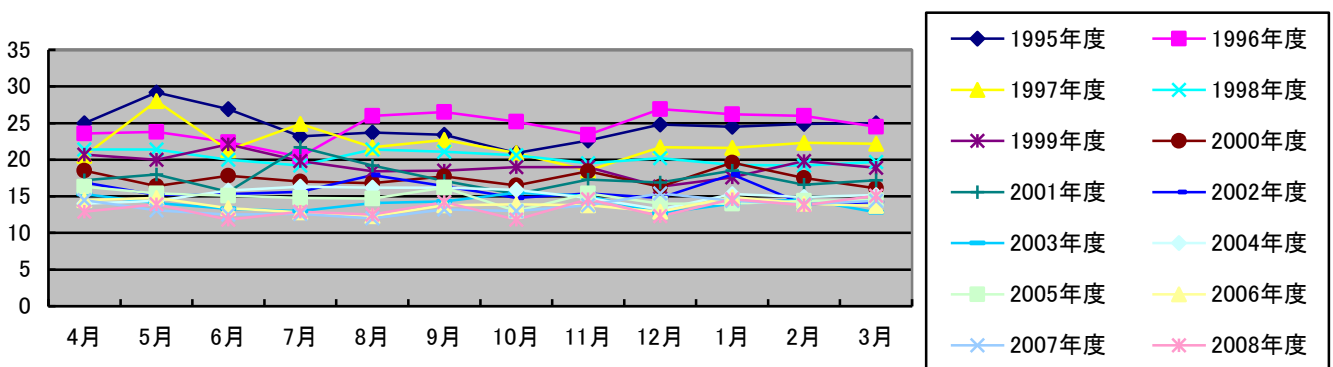
入院患者延べ数推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
4月	6,208	6,189	5,599	5,961	5,500	5,780
5月	6,122	5,657	5,509	6,016	5,042	5,739
6月	5,966	5,922	5,805	5,391	5,029	5,033
7月	5,953	6,301	6,159	5,396	5,396	5,315
8月	5,759	5,855	6,220	5,454	5,529	4,940
9月	5,805	5,860	5,652	5,062	5,469	5,064
10月	6,227	6,245	5,565	5,644	5,646	5,252
11月	6,091	5,820	6,212	5,023	5,721	5,143
12月	5,838	5,607	6,372	5,448	6,248	5,445
1月	5,992	5,791	6,260	5,659	5,682	5,192
2月	6,264	5,521	5,905	5,351	5,713	4,991
3月	6,418	6,334	6,521	5,940	6,301	5,767



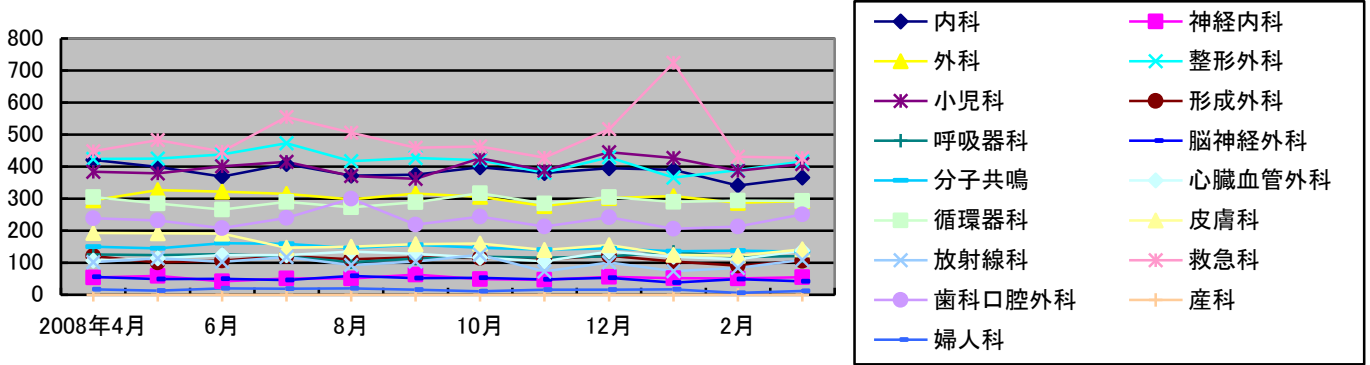
平均在院日数推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1995年度	25.0	29.2	26.9	23.2	23.7	23.4	20.9	22.6	24.8	24.5	24.9	25.0
1996年度	23.6	23.8	22.4	20.4	26.0	26.5	25.2	23.4	26.9	26.2	26.0	24.5
1997年度	20.5	28.0	21.3	24.9	21.7	22.7	20.9	18.5	21.7	21.6	22.3	22.2
1998年度	21.4	21.4	20.0	19.2	21.4	21.1	20.6	19.5	20.2	19.3	19.2	19.7
1999年度	20.7	20.0	22.1	19.8	18.4	18.5	19.0	19.0	16.3	17.6	19.8	18.9
2000年度	18.5	16.4	17.8	17.0	16.8	17.7	16.5	18.4	16.3	19.6	17.5	16.1
2001年度	17.2	18.0	15.6	21.7	19.2	17.1	15.3	17.3	16.9	18.5	16.6	17.2
2002年度	16.9	15.2	15.3	15.6	17.9	16.4	14.8	15.4	14.8	18.0	13.9	14.2
2003年度	15.3	14.1	13.3	13.0	14.1	14.3	15.5	15.1	12.7	14.0	14.6	12.8
2004年度	14.0	14.4	15.8	16.3	16.2	16.2	15.9	14.8	13.2	15.3	14.9	15.2
2005年度	16.3	15.4	15.1	14.8	14.7	16.2	13.0	15.4	14.0	14.0	14.4	14.5
2006年度	14.5	14.8	13.4	12.8	12.3	13.8	13.9	13.8	12.9	14.9	14.0	13.7
2007年度	14.5	13.1	12.5	12.6	12.0	13.2	13.0	13.8	15.4	14.4	13.9	14.4
2008年度	12.9	13.9	11.8	12.9	12.5	14.2	11.8	14.6	12.3	14.6	13.8	15.1



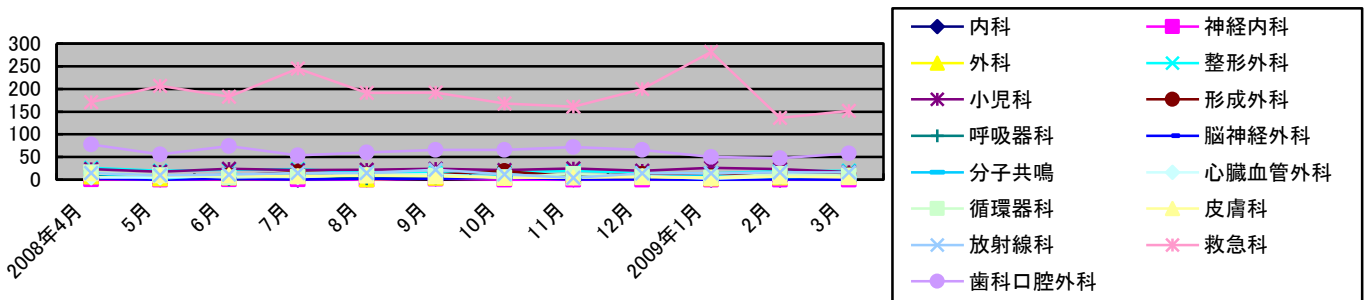
診療科別外来患者延べ数

	内科	神経内科	外科	整形外科	小児科	形成外科	呼吸器科	脳神経外科	分子共鳴	心臓血管外科	循環器科	皮膚科	放射線科	救急科	歯科口腔外科	産科	婦人科
2008年4月	421	54	295	424	384	121	126	56	150	107	305	193	102	448	239	0	17
5月	399	59	327	425	379	101	124	49	145	114	285	192	114	483	232	0	13
6月	369	42	322	438	401	107	127	50	161	124	266	191	103	447	208	0	20
7月	408	51	315	473	415	121	120	46	159	124	290	147	118	555	240	0	19
8月	372	51	298	417	371	111	102	59	146	135	273	150	93	506	300	0	20
9月	375	63	316	427	362	117	113	52	156	128	289	158	104	459	219	0	16
10月	398	49	306	420	426	115	119	53	147	116	317	160	125	463	244	0	11
11月	380	47	277	381	388	111	116	48	141	105	285	140	73	428	213	0	16
12月	395	56	302	429	445	122	120	53	145	135	305	155	101	517	242	0	16
2009年1月	390	52	308	366	427	104	134	38	136	119	290	125	74	724	206	0	17
2月	341	51	287	389	387	91	118	49	138	111	294	122	84	431	213	0	6
3月	366	55	293	416	408	106	121	42	135	138	293	142	109	427	251	0	12



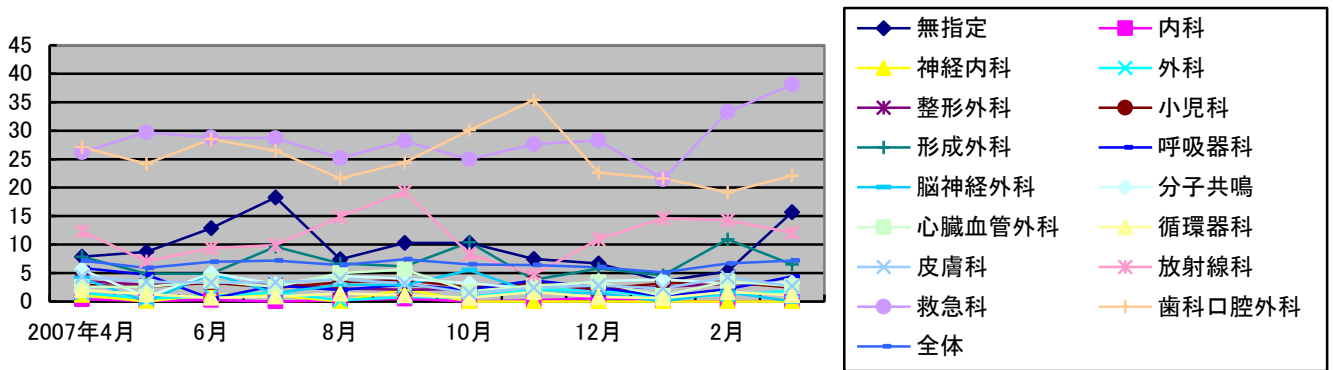
診療科別外来新患数

	内科	神経内科	外科	整形外科	小児科	形成外科	呼吸器科	脳神経外科	分子共鳴	心臓血管外科	循環器科	皮膚科	放射線科	救急科	歯科口腔外科
2008年4月	3	1	7	26	23	15	11	3	14	5	16	14	15	171	78
5月	1	0	3	20	18	9	10	0	2	5	10	10	10	207	56
6月	2	1	5	22	24	9	1	3	12	8	5	10	11	183	74
7月	0	1	9	23	21	17	5	1	8	6	7	8	15	245	54
8月	1	0	1	16	22	11	3	2	10	11	10	9	15	191	60
9月	3	2	4	15	24	11	5	2	10	12	9	8	22	192	66
10月	6	0	4	16	21	19	4	4	8	4	6	4	12	168	66
11月	1	0	9	20	25	7	7	1	5	5	13	5	4	161	72
12月	4	0	10	15	20	13	5	1	8	8	7	6	14	200	66
2009年1月	0	0	3	14	26	8	2	0	8	2	5	4	14	282	50
2月	0	0	5	19	23	15	4	1	6	7	13	7	16	136	47
3月	2	0	9	20	17	11	8	0	7	6	9	6	16	152	58



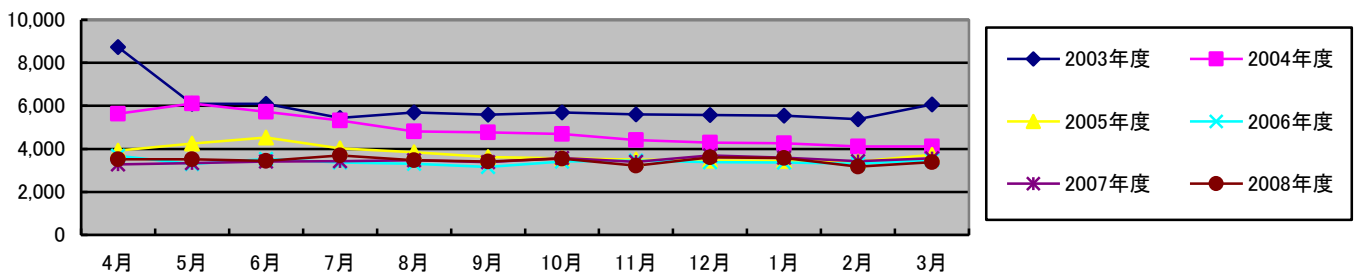
診療科別外来新患率

	無指定	内科	神経内科	外科	整形外科	小児科	形成外科	呼吸器科	脳神経外科	分子共鳴	心臓血管外科	循環器科	皮膚科	放射線科	救急科	歯科 口腔外科	全体
2007年4月	7.9	0.4	1.2	1.5	3.6	2.9	7.9	5.9	4.1	5.6	2.6	2.0	4.4	12.3	26.2	27.1	7.2
5月	8.7	0.1	0.0	0.5	2.9	2.6	4.9	4.7	0.0	0.8	2.6	1.3	3.5	7.1	29.7	24.2	5.9
6月	12.9	0.3	1.3	1.0	3.2	3.3	4.9	0.5	4.9	5.0	3.6	0.7	3.3	9.4	28.8	28.5	7.0
7月	18.3	0.0	1.1	1.6	3.2	2.4	9.6	2.8	1.5	3.1	2.6	0.9	3.4	9.9	28.7	26.5	7.2
8月	7.4	0.2	0.0	0.2	2.3	3.4	6.7	2.0	2.9	4.5	5.0	1.4	3.9	14.9	25.2	21.6	6.4
9月	10.3	0.5	2.2	0.8	2.1	3.8	6.2	3.0	2.9	4.0	5.6	1.1	3.2	19.3	28.2	24.4	7.4
10月	10.3	0.0	0.0	0.8	2.2	2.5	10.4	2.1	5.5	3.2	1.8	0.7	1.5	8.3	25.0	30.1	6.5
11月	7.5	0.2	0.0	2.1	3.2	3.4	3.8	3.7	1.6	2.3	2.8	1.7	2.4	4.7	27.6	35.4	6.4
12月	6.7	0.6	0.0	2.1	2.1	2.2	5.8	2.5	1.5	3.6	3.4	0.8	2.8	10.9	28.3	22.6	6.0
2008年1月	3.6	0.0	0.0	0.7	2.6	3.2	4.6	0.9	0.0	3.9	1.0	0.6	2.3	14.6	21.5	21.6	5.1
2月	5.3	0.0	0.0	1.2	3.1	3.5	10.9	2.2	1.7	3.2	3.6	1.7	4.3	14.3	33.3	19.2	6.7
3月	15.7	0.0	0.0	1.9	2.8	2.4	6.5	4.4	0.0	3.3	2.7	1.1	2.7	12.1	38.1	22.1	7.2



外来患者数推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
4月	8,738	5,640	3,920	3,684	3,286	3,522
5月	6,090	6,103	4,252	3,293	3,336	3,519
6月	6,098	5,722	4,529	3,538	3,412	3,445
7月	5,433	5,313	4,017	3,367	3,433	3,703
8月	5,696	4,819	3,843	3,306	3,470	3,474
9月	5,583	4,772	3,616	3,153	3,380	3,412
10月	5,692	4,699	3,564	3,410	3,570	3,551
11月	5,602	4,417	3,501	3,460	3,399	3,219
12月	5,578	4,294	3,452	3,381	3,700	3,606
1月	5,546	4,264	3,438	3,373	3,596	3,581
2月	5,384	4,106	3,416	3,313	3,433	3,173
3月	6,071	4,115	3,719	3,482	3,560	3,390



手術・処置 統計

形成外科 皮膚科 マキシロ	皮膚皮下	デブリードマン	36
		腫瘍切除術、粘膜下血管腫摘出術	117
		植皮術、皮弁作成術	70
		皮膚悪性腫瘍切除術	12
		皮膚切開術	15
		縫合術	26
		瘢痕拘縮形成手術	2
	骨	骨移植術	7
		骨折観血的手術	3
		骨搔爬術	4
		腐骨摘出術	4
		その他	8
	四肢	四肢切断術	34
	指	陥入爪手術	3
		多指症、合指症手術	2
		断端形成術	19
	眼瞼	眼瞼下垂手術	4
	その他		25
	顎骨形成術		48
	顎、口腔内腫瘍	腫瘍、嚢胞摘出術	9
	顔面骨	骨移植術	5
		骨折観血手術	3
		骨内異物（挿入物）除去術	7
その他		3	
口蓋、口唇裂	口蓋裂形成術	7	
	口唇裂形成術	14	
その他		10	
歯科	埋伏歯抜歯術	209	
	難抜歯	29	
	インプラント	79	
	その他	130	

心臓血管外科	冠動脈	冠動脈バイパス術	22
	心臓弁	弁膜症手術	26
	心臓その他		5
	胸部大動脈		14
	腹部大動脈		23
	末梢血管	バイパス術	45
		血栓除去術等	8
	静脈	静脈瘤手術	64
	動脈	動脈その他	24
	シャント関連		76
	その他		5

外科	胃、十二指腸	開腹 胃切除術	6
		開腹 胃全摘術	4
		腹腔鏡下 胃切除術	3
		縫合術	2
	結腸、直腸	開腹 結腸切除術	11
		人工肛門造設術	4
		人工肛門閉鎖術	6
		腹腔鏡下 結腸悪性腫瘍切除術	6
		腹腔鏡下 直腸切除切断術	5
		その他	7
	小腸、腹膜	開腹 小腸切除術	4
		小腸切除術	2
		腹腔鏡下腸管癒着剥離術	5
		腹膜炎手術	4
		その他	3
	胆嚢	開腹 胆嚢摘出術	3
		腹腔鏡下 胆嚢摘出術	35
		その他	1
	脾	腹腔鏡下 脾摘出術	1
	虫垂	腹腔鏡下虫垂切除術	31
	肛門	痔核手術	5
		肛門周囲膿瘍切開術	2
		その他	2
	肺	胸腔鏡下肺切除術	8
その他		1	
鼠径ヘルニア	開腹 鼠径ヘルニア	12	
	腹腔鏡下 鼠径ヘルニア	24	
	その他	8	

循環器科	心臓カテーテル	心臓カテーテル検査	450
		経皮的冠動脈形成術 (PCI)	236
		再掲) ロータブレーター	(13)
		再掲) エキシマレーザー	(1)
		アブレーション	6
	末梢動脈カテーテル	末梢動脈造影	58
		末梢動脈インターバージョン (EVT)	117
	バスキュラーアクセス カテーテル	シャント血管インターベンション (VAIVT)	71
		シャント造影	2
	静脈カテーテル	IVC フィルター留置	15
		IVC フィルター抜去	3
		その他	1
	心臓ペースメーカー手術		19
	ICD (植込型除細動器)		1
CRT-D (心臓再同期療法/植込型除細動器)		3	

整形外科	腱	腱鞘切開術	4
		腱縫合術	4
	骨折、脱臼	骨折観血的手術	80
		骨折経皮的鋼線刺入固定術	18
		抜釘	39
		その他	6
	関節鏡	滑膜切除術	3
		靭帯断裂形成術	1
		靭帯断裂縫合術	3
		半月板切除術	11
		その他	2
	人工関節	人工関節再置換術（膝）	2
		人工関節置換術（股）	5
		人工関節置換術（膝）	9
		人工骨頭挿入術	11
	脊椎（内視鏡下）	脊腫瘍摘出術	4
		椎間板摘出術	31
		椎弓切除術	71
	脊椎	脊椎固定術	14
		椎弓形成術	10
椎弓切除術		9	
その他		5	
		その他	8

脳神経外科	減圧	開頭減圧術	1
	血腫除去	血腫除去	12
	シャント	水頭症	2
	頭蓋、硬膜形成	頭蓋、硬膜形成	2

サイバーナイフ	転移性脳腫瘍	44
	原発性脳腫瘍（良性）	3
	原発性脳腫瘍（悪性）	15
	転移性骨腫瘍	1
	頭頸部腫瘍	4

内視鏡	【全体】	上部	胃・十二指腸	1379
		下部	直腸	13
			S状結腸	23
			下行・横行結腸	20
			盲腸・上行結腸	493
	気管支			33
	【詳細】	食道・胃・十二指腸	異物摘出術	8
			食道狭窄拡張術	3
			早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	5
			ポリープ・粘膜切除術	3
			止血術	42
			胃瘻造設術	69
			胃瘻交換	100
		膵・胆管	膵・胆管造影法	30
			胆道拡張・乳頭石灰・ステント	28
		結腸	異物除去術	1
			早期悪性腫瘍粘膜切除術	2
			ポリープ・粘膜切除術	78
			結腸狭窄部拡張術	8
			止血術	6
気管支		気管支洗浄	6	
	経気管支肺生検法	22		

救急車搬入患者	CPA	60
	交通外傷	142
	骨折、外傷	189
	呼吸器	155
	循環器	226
	脳神経外科	175
	精神科	78
	中毒	61
	消化器系	175
	泌尿器	54
	その他	151
	整形	39
	婦人科	8
	小児科	22
	計	1535

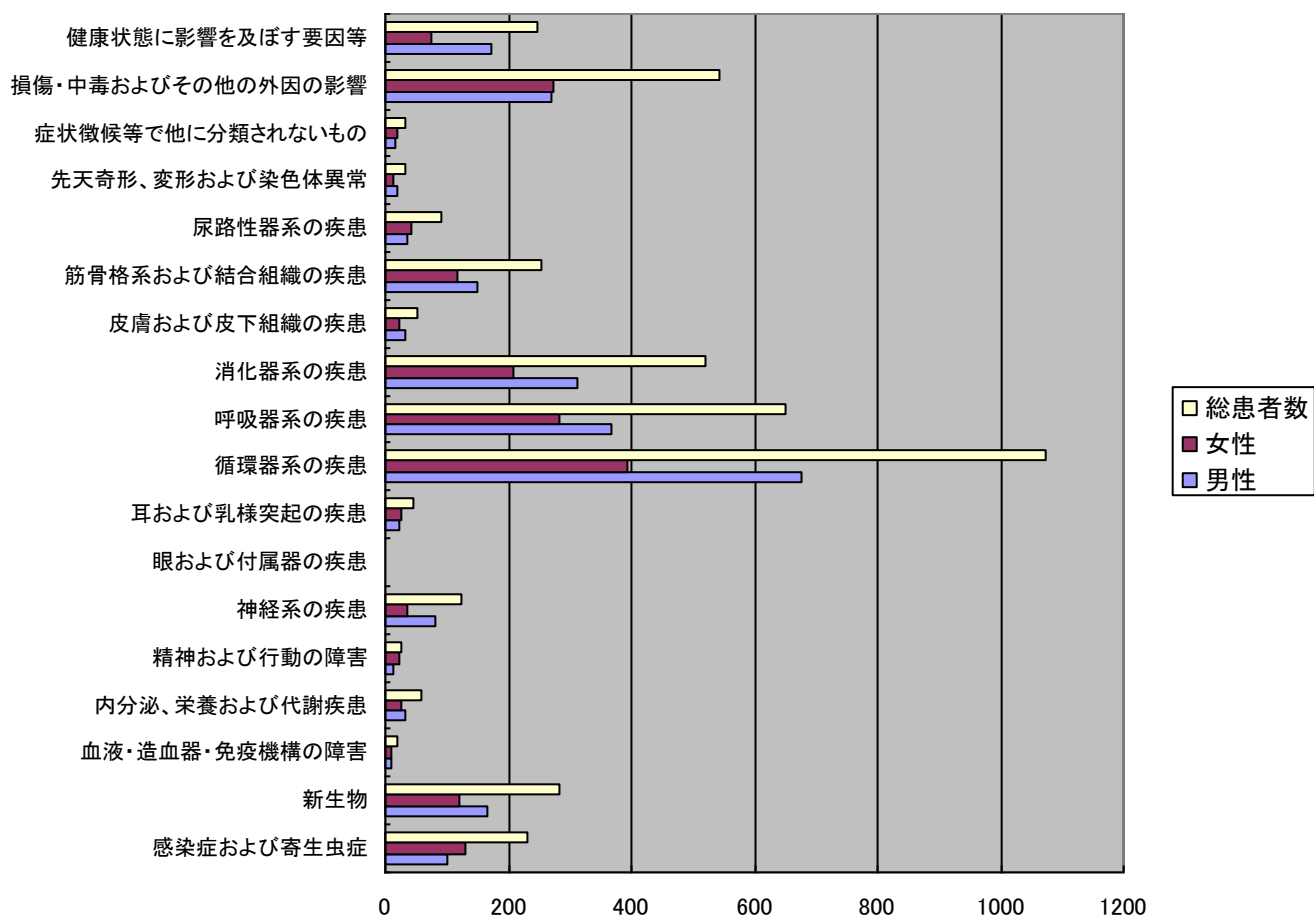
放射線科検査	一般	18,482
	CT	6,694
	MR I	1,937
	透視	359
	R I	264
	パノラマ	1,426
	骨塩量	146
	健診	483
	PCI	212
	PTA	186
	CAG	455
	D S A	66

紹介	紹介患者延数 (人)	6,234
	紹介率 (%)	71.4
	逆紹介患者延数 (人)	6,188
	逆紹介率 (%)	70.9

退院患者統計

病類別（大分類） 性別患者数（延べ数）

大分類	男性	女性	総患者数
感染症および寄生虫症	101	129	230
新生物	165	119	284
血液・造血器・免疫機構の障害	10	10	20
内分泌、栄養および代謝疾患	31	27	58
精神および行動の障害	12	22	26
神経系の疾患	80	35	123
眼および付属器の疾患	1		1
耳および乳様突起の疾患	23	26	45
循環器系の疾患	677	393	1074
呼吸器系の疾患	367	282	649
消化器系の疾患	313	207	520
皮膚および皮下組織の疾患	31	22	53
筋骨格系および結合組織の疾患	148	116	254
尿路器系の疾患	37	43	90
先天奇形、変形および染色体異常	18	13	31
症状徴候等で他に分類されないもの	15	18	33
損傷・中毒およびその他の外因の影響	270	272	542
健康状態に影響を及ぼす要因等	172	76	248



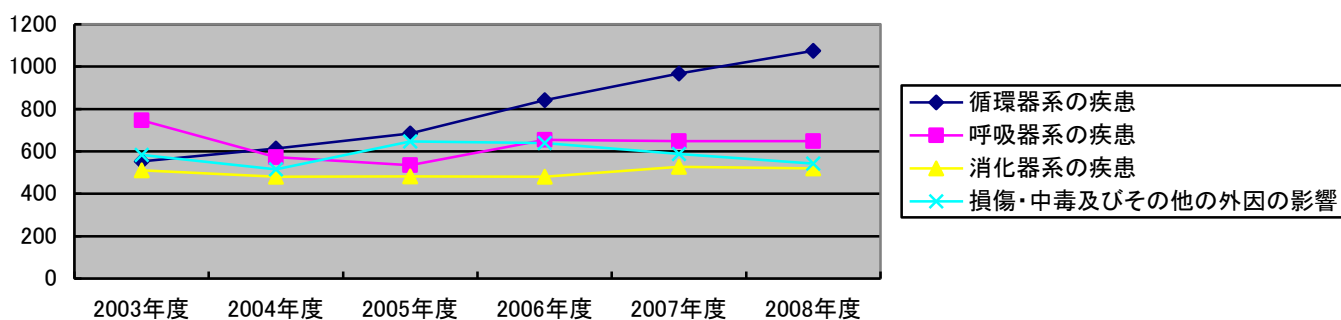
2008年度の延べ患者数は4281人で、前年度に比べ156人減少した。2008年度の延べ患者数は4281人で、前年度に比べ156人減少した。

男女比は1：0.732で前年度とほぼ同様であった。

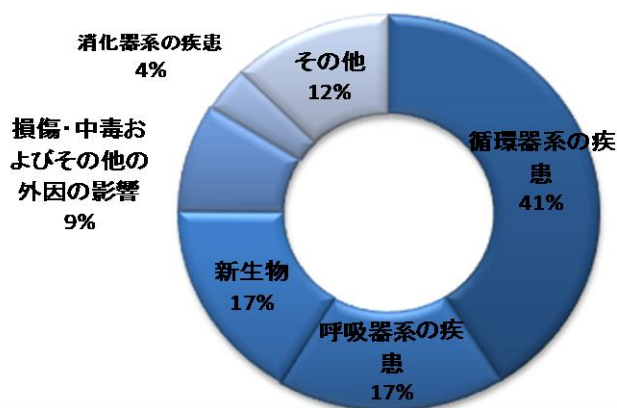
病類別では、「循環器系の疾患」(1074人)、「呼吸器系の疾患」(648人)、「損傷・中毒及びその他の外因の影響」(542人)、「消化器系の疾患」(520人)の順に多く、順位は前年と変わらなかった。しかし、「循環器系の疾患」が前年に比べ10%増加したのに対し「呼吸器系の疾患」は前年とほぼ同数であったため、1位と2位の差は拡大した。

症例の多い疾患5年間の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
循環器系の疾患	553	614	684	842	968	1074
呼吸器系の疾患	746	573	535	655	648	649
消化器系の疾患	511	481	482	480	528	520
損傷・中毒及びその他の外因の影響	584	515	647	640	588	542



病類別(大分類)在院死亡患者の構成割合



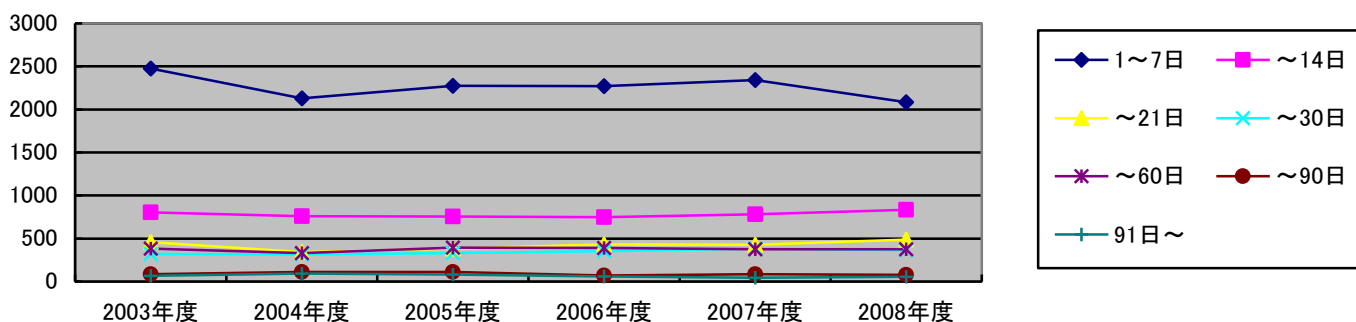
在院死亡患者数は、217人で前年に比べ52人増加した。

本年度より救急患者として搬送され入院前に処置室・手術室等で死亡した患者も入院患者と同様の扱いとなった為と考えられる。病類別では、「循環器系の疾患」(89人)、「呼吸器系の疾患」(38人)、「新生物」(36人)、「損傷・中毒及びその他の外因の影響」(19人)の順に多く、本年度は「損傷・中毒及びその他の外因の影響」が5位となった。

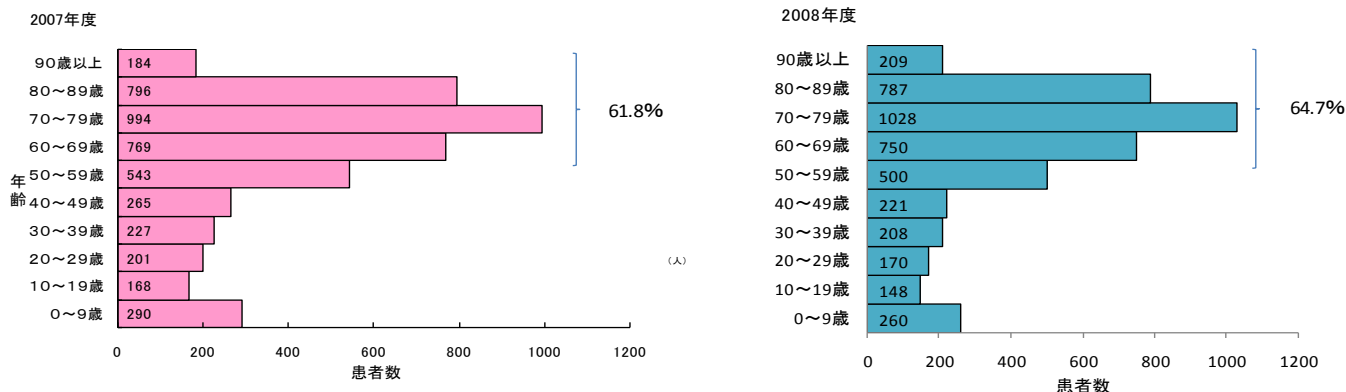
在院死亡患者数全体に占める「循環器系の疾患」の割合は40.0%で前年に比べ10.1ポイント上昇した。

在院日数別患者数の構成割合年次変化

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
1～7日	2477	2130	2274	2271	2342	2085
～14日	803	761	756	750	783	833
～21日	457	344	384	431	427	487
～30日	321	316	331	353	383	365
～60日	385	331	393	392	375	376
～90日	87	112	110	72	84	78
91日～	66	93	82	59	43	57



年齢階級別患者数



年齢階級別患者数は、前年度とほぼ同じ形のグラフとなり、年齢階級ごとの全患者数に占める割合に変化はあまりないことがわかった。60歳以上の患者の占める割合は64.7%で前年度に比べ2.9ポイント上昇した。

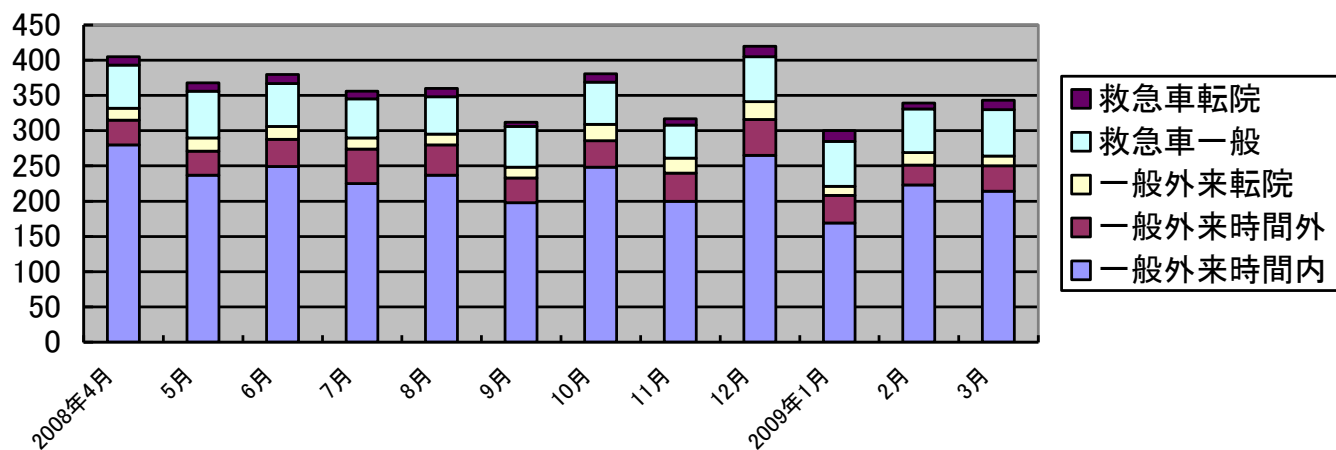
入院経路

		2008年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2009年1月	2月	3月
一般外来	時間内	280	237	249	225	237	198	248	200	265	169	223	214
	時間外	35	34	39	49	43	35	38	40	51	39	28	36
	転院	17	19	18	16	15	15	23	21	25	13	18	14
救急車	一般	61	66	61	55	53	58	60	47	64	64	62	66
	転院	12	12	13	11	12	6	12	9	15	15	8	13

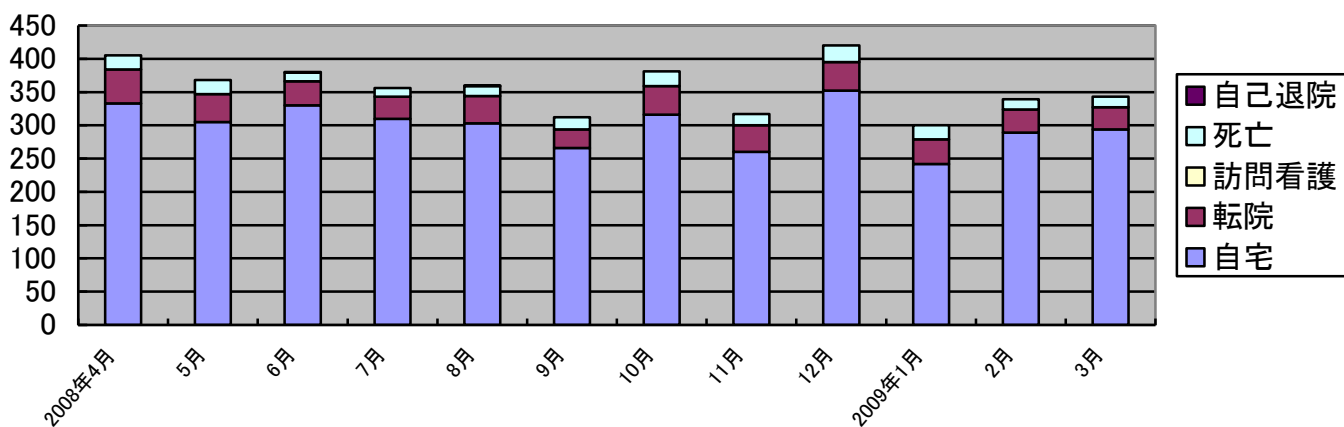
退院経路

	2008年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2009年1月	2月	3月
自宅	333	305	330	310	303	266	316	260	352	242	289	294
転院	51	42	36	33	41	28	43	40	43	37	35	33
訪問看護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	21	21	13	13	15	18	22	17	25	21	15	16
自己退院	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

入院経路



退院経路



診療部活動

<理 念>

患者様を中心に、チーム医療に関わる、全ての英知を結集し、最良の医療サービスを提供します

- 1 敬和の精神にのっとり、常に患者さん一人一人に宿る、生命の尊厳に思いを致す。
- 2 チーム医療を率先し、患者さんに暖かい医療を提供する。
- 3 最新かつ質の高い高度医療を提供するために、常に新しい知識・技術を習得す

医師スタッフ

循環器科		消化器内科		整形外科	
(副院長)	立川 洋一	(部長)	雄山 浩一	(部長)	岡 治道
(部長)	永瀬 公明	腫瘍内科		(部長)	直野 敬
(部長)	宮本 宣秀	(医長)	平島 詳典	(医長)	綾部 真一
(医長)	金子 匡行	麻酔科			山本 光太郎
	石川 敬喜	(部長)	帆足 修一	放射線科	
心臓血管外科		形成外科		(部長)	内田 大地
(理事長)	岡 敬二	(部長)	澁谷 博美	小児科	
(院長)	葉玉 哲生	(部長)	古川 雅英	(部長)	立花 秀俊
(副院長)	迫 秀則	歯科口腔外科		(医長)	足立 晃子
(医長)	竹林 聡	(名誉院長)	柳澤 繁孝	総合診療科	
	高山 哲志	(部長)	松本 有史	(医長)	姫野 信治
外科		(部長)	平野 公彦	皮膚科	
(名誉院長)	姫野 研三	矯正歯科		(医長)	中田 京子
(主任部長)	佐藤 博	(部長)	小椋 幹記	分子共鳴研究室	
(部長)	平林 康宏	脳神経外科		(会長)	岡 宗由
救急科		(副院長)	山口 豊		
(医長)	大久保 浩一				

分子共鳴研究所

概要、構成、スタッフ：

岡宗由（会長）が、分子波動共鳴法により統合代替医療研究室において行っています。

2008年度実績： 入院数 21 外来数 2377 悪性腫瘍治療 神経ブロック

外科

2008年度実績： 入院数 760 外来数 2962

手術 400 (うち内視鏡手術 140) (手術統計参照)

救急科

2008年度実績：入院数 252 外来数 6044

形成外科

一般に「外科系診療科」は、(1)生命を救うこと(救命)、(2)痛みを除去すること(除痛)、(3)機能を回復すること(機能回復)、加えて(4)社会生活の質(QOL: quality of life)を向上させることを目的に、手術的治療を行います。この中で、形成外科は主として、機能回復とQOLの向上を目的とする専門外科です。生まれつきの、またはけがや癌などで変形したり失われた体の表面や骨の異常を、機能の回復のみならず形も正常に近い状態に再建し、QOLの向上に貢献するために治療を行っています。

形成外科で治療を受けた方々が、笑顔で再び社会生活に復帰してゆく姿を見ることが、形成外科を専門とするわたしたちの最高の喜びです。

本院では創傷ケアセンター、マキシロフェイシャルユニットという特殊診療部門2つの運営にも携わっております。なお、形成外科の具体的な治療対象疾患については、下記の通りです。

1. 新鮮熱傷、2. 顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷、3. 唇裂・口蓋裂、4. 手、足の先天異常、外傷、5. その他の先天異常、6. 母斑、血管腫、良性腫瘍、7. 悪性腫瘍およびそれに関連する再建、8. 瘢痕、瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイド、9. 褥瘡、難治性潰瘍、10. 美容外科

2008年度実績: 創傷ケアセンター新患数 64 手術数 手術 944 (手術統計参照)

学会発表

2008. 4. 9 第51回日本形成外科学会総会 オール・オン・フォー(All on 4)による口腔機能改善によるアンチエイジング 名古屋

2008. 3. 4 大分形成懇話会 上顎骨骨折治療後に下眼瞼外反を来した1例 大分

2008. 6. 17 大分形成懇話会 手術結果に不満が残ったClass II変形の1例 大分

2008. 7. 5 MMC研究会 大分岡病院創傷ケアセンターの現状 福岡

2008. 9. 8 糖尿病アーベント 大分岡病院創傷ケアセンターにおける糖尿病足病変の診療 大分

2008. 10. 31 第1回福岡西部フットケア研究会 チーム医療による下肢慢性創傷、難治性潰瘍の治療 福岡

2008. 11. 8 第5回日本フットケア学会大分セミナー 慢性創傷を治す・血行再建術前後の創管理の実際 別府

2008. 9. 21 第5回ミレニア創傷ケア研究会 これが当院の治療の工夫 再発予防への取り組み 札幌

2009. 2. 27-28 第7回日本フットケア学会 大分岡病院創傷ケアセンターにおけるバージャー病の治療経験 横浜

2009. 3. 3 大分形成懇話会 TAOの治療経験 大分

2009. 3. 14 日本形成外科学会九州支部集会第79例会 骨盤骨折後に生じた仙骨部皮膚軟部組織欠損に対して持続陰圧吸引療法と高圧酸素療法後、広背筋皮弁で再建した1症例 博多

実習生受入状況: 大分大学から2名

呼吸器科

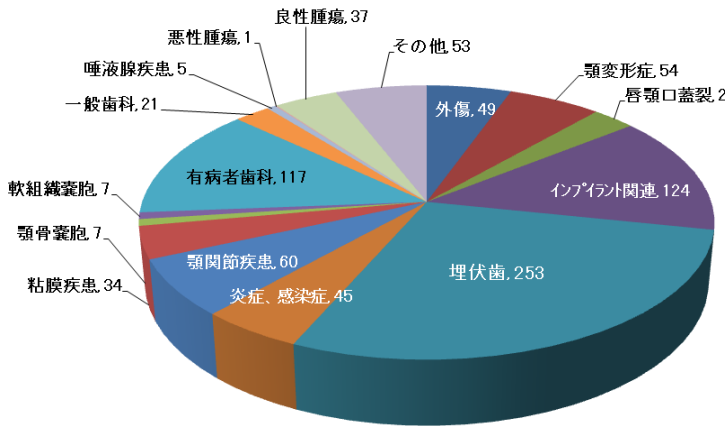
2008年度実績: 入院数 581 外来数 3845 ニコチン依存症管理 悪性腫瘍 喘息管理

歯科口腔外科 (マキシロフェイシャルユニット)

2008年度実績:

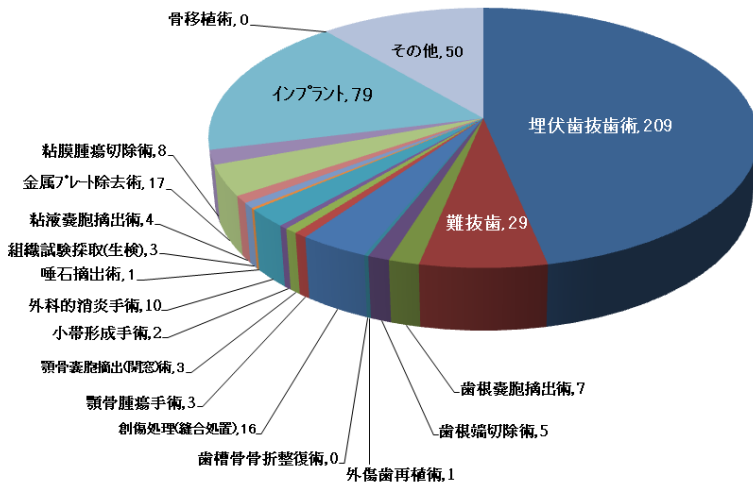
対外活動: ベトナム医療活動 2008年12月19日~同年12月28日 ベンチェ省にて口唇口蓋裂児の手術

マキシロ 疾患別新患数(2008年4月～2009年3月)
総計: 892例



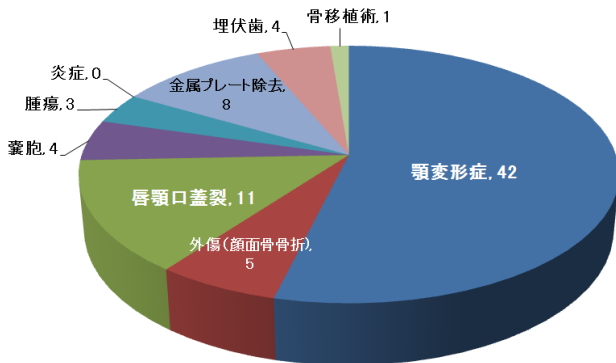
H20年度に外来を受診した新患は892例であり、疾患別では埋伏歯、インプラント症例、有病者歯科症例が多かった。リスクの高い処置や重症菌性感染症、外傷などの歯科医院では処置困難な症例を受け入れている。インプラント症例が増加しており、マキシロ自由診療収入(83832760円)の95%を占めている。H19年4月矯正歯科開設により、顎変形症や唇顎口蓋裂の矯正治療が可能になり、通常の歯科矯正患者も徐々に増加しつつある。

マキシロ 外来手術件数(2008年4月～2009年3月)
総計: 447件



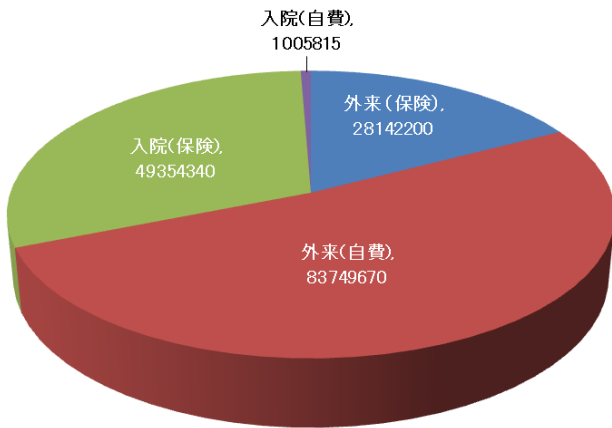
H20年度の外来手術件数は447件で、抜歯術209件に次いでインプラント手術が79件と増加している

マキシロ 全麻手術件数(2008年4月～2009年3月)
総計: 78件



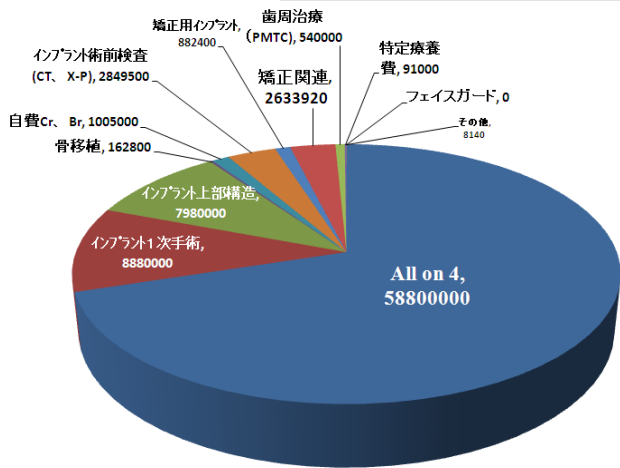
H20年度の全身麻酔手術件数は78件で、顎変形症(顎骨形成術)が42件と増加傾向にあった。H19年4月の矯正歯科開設により、術前後の歯列矯正治療、分析精度が格段に向上した。

マキシロ実績 (2008年4月～2009年3月)
総計: 162252025円



H20年度のマキシロ実績は総計162252025円で、外来自由診療が83749670円 (52%) であった。

マキシロ自由診療 (2008年4月～2009年3月)
総計: 83832760円



H20年度の外来自由診療収入83832760円(H19年度67527100円)で、インプラント関連(埋入手術、補綴治療:79670000円)が95%、All on 4 インプラント (58800000円) が70%であった

学会発表 等:

2008/10/20・21 平野公彦 第53回日本口腔外科学会総会 徳島市 コンピュータ下フラップ法によるAll on 4 インプラント術について

<講演>

招待講演 Early detection and treatment for keeping the QOL of oral cancer patients.

中華牙医学会第31回学術大会 11月18日 2008年 台北市。中華牙医学雑誌 27: p10

柳澤繁孝, 他: 一口30回咀嚼法がメタボリックシンドロームの予防・改善に貢献するか。

日本肥満学会、2008年 肥満研究 2008; 14(Suppl): 252.

花田信弘、柳澤繁孝ほか: 咀嚼法による体重コントロール効果に関する介入研究。日本疫学会

2009年1月24日 金沢市、Supplement to Journal of Epidemiology 2009; 19(1): 250.

柳澤繁孝, 他: メタボリックシンドロームの保健指導に歯科的な観点を導入することの効果に関する研究—

咀嚼法による体重コントロール効果に関する介入研究。厚生労働科学研究費 循環器疾患等生活習慣病対策

総合研究・糖尿病戦略等研究研究成果発表会 (研究者向け) 2009年2月9日 東京

<論文>

Furukawa Masahide, SHIMODA Hiroshi, KAJIWARA Tooru, KATO Seiji and YANAGISAWA Shigetaka:

Topographic study on nerve-associated lymphatic vessels murine craniofacial region

by immunohistochemistry and electron microscopy. Biomedical Research 29(6): 289-296, 2008

柳澤繁孝: 日本口腔ケア学会編集、口腔ケア—基礎知識—、口臭の原因 永末書店、東京、152頁、2008

柳澤繁孝: 私の地上の星たち。大分大学歯科口腔外科学講座同門会誌 2008年8月

柳澤繁孝, ほか: 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 メタボリックシンドロームの保健指導に歯科的な

観点を導入することの効果に関する研究 平成19年度 総括研究報告書

記事

スタッフ研修参加

氏名	期間	研修会・学会名など
平山 祐子	2008.5月28、29日	日本口蓋裂学会参加
	2008.6.9.月	院内口腔ケア研修開催 (3回コース)
	2009.1月	院内口腔ケア研修開催
	2008.12月19～28日	ベトナム国際医療支援
麻生 清子	2008.4月3日	院内新人全職員対象に口腔ケア講習会
	2008.4月10日	大分保険医協会で講演
	2008.4月～2009.3月	福徳学院高等学校へ講義と実技指導 (週1回)
	2008.4月～2009.3月	母親教室へ講義 (月1回)
	2008.4月25日～27日	日本歯周病学会参加(埼玉県)
	2008.4月10日	院内新人NS研修会で講義と実技指導
	2008.5月19日	大分市民健康づくり運動指導者養成講座で講演
	2008.6月1日	大分県歯科衛生士会公衆衛生活動参加
	2008.6月14日	院内口腔ケア研修会で講義と実技指導
	2008.6月15日	大分地域リハビリテーション研修会参加
	2008.6月19日	院内NST研修会で口腔ケア講習会
	2008.6月22日	大分県歯科衛生士会新人研修会参加
	2008.6月29日	大分食リハビリテーション研修会参加
	2008.7月6日	日本歯周病学会学術大会発表 (大分県)
	2008.7月20日	口腔外科学会参加 (大分日赤病院)
	2008.8月2日	日本歯科医学会参加 (大分県)
	2008.9月1日	大分市民健康づくり運動指導者養成講座で講演
	2008.9月6日～7日	日本歯科衛生士学会参加 (横浜)
	2008.9月23日	大分県医療団体協議会“元気フェア”で講演
	2008.9月27日	院内口腔ケア研修会で講義と実技指導
	2008.10月5日	大分県歯科衛生士会口腔機能向上研修会参加
	2008.10月19日	大分県歯科衛生士会歯周病セミナー参加
	2008.10月19日	敬和会健康フェスタで口腔ケア講習甲斐
	2008.11月22日	院内ヘルパー研修会で講義と実技指導
	2008.12月7日	大分食リハビリテーション研修会参加
	2008.12月13日	院内「親の会」で講演
	2008.12月14日	口腔外科学会参加 (ピーコンプラザ)
	2008.12月19日	野津原公民館高齢者講座で講演
	2009.1月9日	大分市民健康づくり運動指導者養成講座で講演
	2009.1月31日	院内口腔ケア研修会で講義と実技指導
2009.2月14日	大分県歯科医師会研修会参加	
2009.2月23日	院内3病棟”病棟会”で口腔ケア講習会	
2009.3月7日～8日	大分県歯科衛生士会SRPセミナー実技指導	
古田 勝典	2008年6月	別府歯科臨床研究会 (ななし会) 発表
	2008年8月	大分県歯科技工士会生涯研究会参加
	2008年8月	日本歯科技工士会 九州・沖縄支部学術大会参加
	2008年11月	国際歯科技工士会参加
	2008年1～11月	別府歯科臨床研究会 (ななし会) 参加 (全11回)
渡辺 弘美	2008年6月	スウェーデンにおける歯科衛生士

	2008年9月	日本口腔インプラント学会参加
	2009年1月	口腔ケアシンポジウム
畑村 美香	2008年7月	日本歯周病学会主催 第14回歯科衛生士講演会
	2008年9月	日本歯科衛生士学会
	2009年10月	口腔機能向上、口腔ケア研修会
	2009年10月	歯周病の基礎知識と業務記録のつけ方研修会
	2009年1月	口腔ケアシンポジウム
岩崎 愛実	2008年6月	スウェーデンにおける歯科衛生士
	2008年9月	日本口腔インプラント学会参加
	2009年1月	口腔ケアシンポジウム

循環器科

2008年度実績：（手術統計参照）

学会発表・投稿・著書：

〈論文〉

持続する疼痛から基礎疾患が判明した蜂巣織炎の2例 高安 進、澁谷博美、佐藤精一、立川洋一 西日本皮膚科 平成20年6月発行 第70巻第3号 292-295

〈著書〉

重症虚血肢診療の実践 集学的治療によるアプローチ 南江堂 監修 南都伸介 編集 飯田 修 共著 立川洋一
〈日本語口演〉

2008/4/5 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一 The 2nd JPR (Japan Peripheral Revascularization) 神戸市 創傷ケアセンター (創傷センター)

2008/5/9 熊本労災病院講演会 末梢動脈疾患のカテーテル治療とフットケア 熊本労災病院 八代市 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/5/24 第2回日光トランスラディアル研究会 サンシティホール 埼玉県越谷市 Excimer Laser Coronary Angioplasty はどの様な症例に有効か? 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/5/31 第25回小倉ライブデモンストレーション SFA インターベンションの合併症 西日本総合展示場 北九州市小倉区 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/7/8 第21回おおいの会 冠動脈インターベンション(PCI)の現状 大分市 東洋ホテル 3階 瀬戸の間 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/7/16 臨床血管障害フォーラム 頸動脈エコーの実践とエビデンス 頸動脈エコーによる動脈硬化性疾患の診断と薬物療法 全日空ホテルオアシスタワー 3F 紅梅の間 大分市高砂町2-48 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/7/22 第14回県南透析療法カンファレンス学術講演会 特別講演 維持透析患者における末梢動脈疾患の診断と治療 ホテル金水苑本館2階 佐伯市駅前2丁目4-13 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

2008/7/29 神戸冠動脈疾患治療研究会 クラウンプラザ神戸 9階 「リンデン」の間 末梢動脈疾患に対するエキシマレーザー動脈形成術の有用性 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一

2008/7/30 急性心筋梗塞連携パス研究会 大分岡病院における地域連携パスへの取り組み 鶴崎ホテル 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一

2008/8/27 大分心血管合同カンファレンス iichiko 総合文化センター4階中会議室 当院におけるテルミサルタンの治療成績 大分岡病院心血管センター循環器科 石川敬喜
エキシマレーザーとロータブレードをどのように使い分けるか? 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一

2008/8/29 長崎トランスラディアル研究会 ながさきハートクリニック 講演 冠動脈レーザー治療について 大分岡病院心血管センター長 立川洋一

2008/9/8 第117回糖尿病アーベント 大分県医師会館7階大会議室 大分市大字駄原 糖尿病に合併した下肢末梢動脈疾患のインターベンション治療 心血管センター循環器科 立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、金子匡行、石川敬喜

- 2008/9/25 第5回大分PAD(末梢動脈疾患)懇話会 全労済ソレイユ 講演 糖尿病と末梢動脈疾患 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一
- 2008/10/31 第1回福岡西部フットケア研究会 JAL リゾートシーホークホテル福岡 講演 重症虚血肢に対する血管内治療 -末梢動脈インターベンションによる血行再建術の有用性- 大分岡病院心血管センター長 立川洋一
- 2008/11/8 日本フットケア学会大分セミナー 別府ビーコンプラザ 講演 重症虚血肢に対するインターベンション治療 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一
- 2008/11/21 玖珠郡医師会学術講演会 ホテル清流 玖珠町帆足 末梢動脈疾患の診断と治療 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一
- 2008/11/24 第8回日本心血管カテーテル治療学会 国立京都国際会館 講演 脛骨腓骨動脈領域のインターベンションの適応、デバイスの選択と短期長期予後 大分岡病院副院長・心血管センター長 立川洋一
- 2008/11/29 第1回九州 Joint Endovascular Therapeutics (QJET) アクロス福岡 講演 ニューカマーセッション ペリフェラルカッティングバルーン 大分岡病院心血管センター長 立川洋一 講演 CLI 「透析患者の足を診る・触る・治療する(チーム医療の重要性)」 ～循環器医の立場から～ 大分岡病院心血管センター長 立川洋一
- <英語口演>
- 2008/7/3 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会 名古屋国際会議場 名古屋市 TURBOBOOSTER systemを用いたエキシマレーザ血管形成術が有効であった浅大腿動脈病変の2症例 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史、石川敬喜
- Two effective cases of directed excimer laser atherectomy with TURBOBOOSTER System in superficial femoral artery lesions Oita Oka Hospital Cardiovascular Center Cardiology Yoichi Tatsukawa, Kimiaki Nagase, Nobuhide Miyamoto, Takashi Sato, Toshinobu Ishikawa
- <英語ポスター>
- 2008/7/3 第17回日本心血管インターベンション学会学術集会 名古屋国際会議場 名古屋市 中心静脈狭窄に対してネックレスシヤント経由にてPTAを施行した1症例 大分岡病院心血管センター循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史
- A case of percutaneous interventions in central venous stenoses via right subclavian artery to contralateral left subclavian vein “Necklace” hemodialysis graft Oita Oka Hospital Cardiovascular Center Cardiology Toshinobu Ishikawa, Yoichi Tatsukawa, Kimiaki Nagase, Nobuhide Miyamoto, Takashi Sato
- <日本語口演>
- 2008/5/29 第155回大分循環器研究会症例検討会 大分東洋ホテル 大分市 たこつぼ型心筋症 立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史、石川敬喜
- 2008/6/12 第13回ブンゴイノトロピニアゴラ 大分東洋ホテル 大分市 心臓再同期療法までの薬物療法としてピモベンダンが有用であった慢性心不全の1症例 大分岡病院心血管センター循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史
- 2008/6/23 第104回日本循環器学会九州地方会 鹿児島市 急性冠閉塞を発症したバルーン不通過の高度石灰化病変に対してELCAが有効であった1症例 大分岡病院心血管センター循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史 大分大学医学部感染分子制御講座・第2内科 田村彰
- 2008/7/14 第116回糖尿病アーベント 大分県医師会館7階大会議室 大分市大字駄原 低血糖により無症候性急性冠症候群を発症した高齢者2型糖尿病の1症例 心血管センター循環器科 立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、石川敬喜、貴島健、福田敦夫
- 2008/8/30 第5回JACT・第15回JSIC 平成20年度九州合同地方会 長崎ハウステンボス OCT(Optical Coherence Tomography)の使用経験 心血管センター循環器科 宮本宣秀、立川洋一、永瀬公明、金子匡行、石川敬喜、大分大学医学部感染分子制御講座・第二内科 田村彰、神戸大学医学部循環器内科 志手淳也
- 2008/8/30 第5回JACT・第15回JSIC 平成20年度九州合同地方会 長崎ハウステンボス Express LD の初期成績 心血管センター循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、金子匡行、大分大学医学部感染分子制御講座 田村彰
- 2008/9/8 第56回日本心臓病学会学術集会 東京国際フォーラム(東京) 低血糖発作が誘因となった無症候性急性冠症候群の1症例 心血管センター循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史

2008/11/9 第27回大分救急医学会学術集会 大分県医師会館 7階大会議室 急性心筋梗塞との鑑別を要したたこつぼ型心筋症の臨床的特徴 心血管センター循環器科 福田敦夫、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、石川敬喜

2008/11/29 第1回九州 Joint Endovascular Therapeutics (QJET) アクロス福岡 ハンドピットを用いて血栓溶解療法を施行した上肢深部静脈血栓症の2例 大分岡病院心血管センター循環器科 金子匡行

2008/12/9 高血圧学術講演会 -高血圧のNext Stageへ- 大分全日空オアシスタワー 5階 孔雀の間 大分岡病院におけるテルミサルタンの使用経験 心血管センター循環器科 石川敬喜

2009/1/23 第10回大分心臓リハビリテーションセミナー 大分県医師会館 大分岡病院心血管センターにおける心臓リハビリテーションの現況 リハビリテーション科 西山幸太郎 心血管センター 循環器科 石川敬喜、立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史

2009/2/12 心不全医療連携研究会 社会医療法人敬和会大分岡病院 地域医療研修センター 心不全医療連携の試み 立川洋一、永瀬公明、宮本宣秀、佐藤崇史、石川敬喜
 <座長 コメンテーター他>

2008/4/25 The 3rd Cypher Safety Summit in Oita 大分全日空ホテルオアシスタワー 大分市 座長 心血管センター循環器科 立川洋一

2008/5/16 講演会 RA系阻害薬を再考する 鶴崎ホテル「パロマパラシオ」 大分市皆春 座長 心血管センター循環器科 立川洋一

2008/5/31 第25回小倉ライブデモンストラーション 西日本総合展示場 北九州市小倉区 PPI Live iac/SFA/BK Faculty and Commentator 心血管センター循環器科 立川洋一

2008/9/5 S a p p o r o Live Demonstration Course 2008 京王プラザホテル札幌 札幌 Faculty and mentator 心血管センター循環器科 立川洋一

2008/8/30 第5回JACT・第15回JSIC 平成20年度九州合同地方会 長崎ハウステンボス 座長 PPI2 (ASO) 心血管センター循環器科 立川 洋一

2008/11/1 第1回JACCT/JSIC九州合同地方会ライブ アクロス福岡 コメンテーター 心血管センター循環器科 立川洋一

2008/11/24 第8回日本心血管カテーテル治療学会 国立京都国際会館 座長 フォーカスセッション06 末梢血管インターベンション3：脛骨腓骨動脈領域 心血管センター長 立川洋一
 <市民公開講座>

2008/5/25 第3回大分岡病院心血管センター主催市民公開講座 iichiko 総合文化センター

2008/9/7 第4回大分岡病院心血管センター主催市民公開講座 鶴崎公民館

2008/12/7 第5回大分岡病院心血管センター主催市民公開講座 竹田市 JA 大分みどり 2階ホール

2009/3/29 第6回大分岡病院心血管センター主催市民公開講座 豊後大野市 JA
 <その他>

2008/10/4-5 第3回大分県新医師臨床研修指導医講習会 大分大学 タスクフォース 大分岡病院副院長 立川洋一

2008/10/18-19 九州厚生局主催新医師臨床研修指導医講習会 沖縄 タスクフォース 大分岡病院副院長 立川洋一

2009/3/14-15 第4回大分県新医師臨床研修指導医講習会 大分大学 タスクフォース 大分岡病院副院長 立川洋一
 <海外出張>

英国感染管理研修 ロンドン 大分岡病院心血管センター循環器科 宮本宣秀

2009/01/10-01/14 LINC Asia-Pacific Hong-Kong 香港 大分岡病院心血管センター循環器科 立川洋一

小児科

2008年度実績：急性感染症における漢方薬併用の効果の確認 抗生剤の適正使用n推進

学会発表：

2008/11/16 立花秀俊・足立晃子 第34回日本東洋医学会九州支部学術総会 「小児の気管支炎に対する柴陥湯の治療経験」

投稿・著書：

「インフルエンザに対する漢方薬増量頻回投与の治療経験」 日本小児科医会会報 立花秀俊 2008年11月
 「小児の気管支炎に対する柴陥湯の治療経験」 漢方の臨床 立花秀俊・足立晃子 2009年1月

心臓血管外科

2008 年度実績： 入院数 314 外来数 3267 (手術統計参照)

整形外科

2008 年度実績： (手術統計参照)

脳神経外科

2008 年度実績： (手術統計参照)

皮膚科

2008 年度実績：入院数 32 外来数 3579

いぼ冷凍凝固法	111	軟属腫摘除	9
皮膚科光線療法 (長波紫外線)	90	創傷処理	5
皮膚科光線療法 (赤外線)	1	創傷処置	53
鶏眼・胼胝処置	18	熱傷処置	23
皮弁作成術・移動術・切断術・遷延皮弁術	1	陥入爪手術	3
皮膚切開術	16	爪甲除去術	1
皮膚腫瘍摘出術	15	面皰圧出法	3

放射線科

2008 年度実績： (手術統計参照)

麻酔科

2008 年度実績： 全身麻酔 592

看護部活動

- 1 各自が責任をもって適切な看護ケアをおこないます
- 2 愛情をもって患者さんに接し、あたたかい医療を目指します
- 3 専門職として自己研鑽に努め、看護の質の向上をはかります

概要 構成スタッフ (平成 20 年 4 月時点)

- 看護単位 10 単位 (看護管理室、外来、2 病棟、3 病棟、4 病棟、5 病棟、ICU、透析室、手術室、マキシロフェイスナルユニット)
- 看護部 207 名 (看護師 166 名、准看護師 17 名、看護補助者 22 名、臨床工学技士 2 名)

2008 年度看護部目標

- 1 信頼と満足の得られるような看護ケアをおこないます
- 2 やさしく、思いやりのある態度で看護を実践します
- 3 チャレンジ精神を発揮し、自律した看護を目指します

2008 年度実績

4 月に新卒看護師を 8 名迎えスタートした。

教育体制については、専従の教育師長を配置し3年目になった。

クリニカルラダーシステム（臨床看護実践能力習熟度段階制）に添った継続教育が安定化し、教育体制も充実してきた1年であった。

前年度より災害対策委員会を発足し、広域災害、局所災害などによる傷病者多数発生事例における非常事態時の受け入れができるように、その体制や帳票類を整理し、4月には災害訓練を行った。初めての試みであったが、新入職員を模擬患者として、それぞれの役割を認識しながら災害協力病院としての自覚を持った。2月には実際に災害受入を行い、更なる課題も抽出され、今後も継続的に訓練の必要性を学んだ。EPA（経済連携協定）により、日本とインドネシアによる初めての看護師、介護士の受入事業が始まった。書類審査の結果、JICWELS（国際厚生事業団）に看護師コースの機関として登録され、2名のインドネシア看護師候補生を迎え入れる事ができた。外国人と共に働く環境で、彼女たちの透き通った目の輝き、純粋な気持ち、丁寧な日本語等、彼女たちから学ぶものも大きい。これから3回の看護師国家試験を受けるチャンスが与えられ、合格に向けて一緒に勉強しているところである。12月には、国際医療支援として理事長、柳澤名誉院長とともに看護師1名が、ベトナム（ベンチュ省のグエンディンチュー病院）へ口唇口蓋裂手術の介助として参加した。日本から15もの大学や病院からのスタッフが参加し、交流を深めることができた。

1、実習生受け入れ状況

- 明豊高校専攻科2年生13名 成人看護、老年看護
実習期間 5/1～7/4（1グループ4～5名 3週間）
- 明豊高校専攻科1年生18名 基礎看護、成人看護実習
実習期間 11/25～1/30（1グループ4～5名 2週間）

看護部委員会活動

1、看護部教育委員会

目的：社会医療法人敬和会経営理念及び看護部理念に基づいて看護部教育計画を系統的に企画・運営し、看護専門職として責任を持って質の高い看護ケアを提供できる人材を育成することを目的として設置する。

1. 毎月第1月曜日に定例委員会を実施
2. 看護部継続教育はクリニカルラダーを基にレベル別に企画・運営・実施。

ラダーにて担うべき具体的な役割を明示し、その役割の中でどのような成果を生み出していくのかを明確に示し、役割を遂行していくために必要な能力・資質を育成していく。

また、院内・外研修を通し、初任者の成長を考慮した経年別研修と職務遂行に必要な職位別研修及び専門性を高めるための専門別研修に分け、主体性や自己啓発を促すために院内ではグループワークを取り入れ、自ら学ぶ姿勢を身につけるための学習支援を行っている。

3. 委員会活動は、主体的な研修会になるよう研修会の運営を委員へ徐々に委ねつつ、看護研究やプリセプターのアソシエイトとして教育的ステップを踏んでお互いに成長発達できるよう行っている。

4. 研修会参加実績

- 院外研修参加は 述べ191名
- 院内研修参加は 述べ701名であった。
- 担当：藤谷 悦子看護副部長（教育担当）

2. 業務改善委員会

<活動>

検討内容は担当を各部署月別にわけ、委員会の都度提示してもらった。検討内容としては、各部署間への業務改善依頼が多かった。

<反省点>

業務改善での検討内容は、師長会議で解決できるのではないかと考えるものが多かった。

メンバーの欠席などで、数回、委員会が延期する月もあった。

今後は、委員会が活発化できるような運営方法をメンバーで考えていかななくてはならない。

- 担当：松 久美（外来師長）

3. 看護基準手順委員会

- ・毎月最終金曜日 16 時から委員会を実施。
- ・作製済みの「看護手順 1」の各項目の見直し施行。
- ・病室に表示していた「一日の病棟の流れ」が統一されていなかったため、
部屋移動になった時もわかりやすいように 2, 3, 4, 5 病棟で統一し、各部屋に掲示する。

担当：川口 悦美 (3 病棟師長)

4. クリティカルパス委員会

毎月第 1 月曜日 17 時から定例会議実施。

看護ケアの充実のためのパスの見直し実施。

医師の協力が得やすい部署より作成し、運用しているが、パスはあるものの運用
されていない疾患もある。今後検討が必要。

担当：朝倉 裕美 (4 病棟師長)

5. 看護部感染対策委員会

ICU 小野 NS より既に報告提出されています。

担当：小野 祐子 (ICU 看護師)

6. 看護部感染対策委員会

2008 年度 目標

- 1) 病棟内での感染対策のモデルとなり、看護ケアにおける感染防止対策を実践できる
- 2) 病棟内における問題点を把握し、その問題解決のための具体策を立案、実施できる
- 3) 感染発生状況に関する連絡、報告を行う
- 4) 委員会での決定事項、伝達事項を周知徹底する

2008 年度 委員会年間会議内容、活動報告

- 1) MRSA サーベイランス関連
 - ① MRSA 検出状況の報告
 - ② 報告用紙の改訂
 - ③ ヒビスコール使用量のチェック
- 2) UTI サーベイランス関連
 - ① カテーテルの固定、管理状況の把握
- 3) SSI サーベイランス関連
 - ① 心臓血管外科患者対象の SSI サーベイランスを開始
- 4) BSI サーベイランス関連
 - ① 血液培養採取時の手順をスタッフに周知徹底する
 - ② 薬液混合時の手順、輸液セット交換時期の再確認
 - ③ 輸液、注射薬の取り扱いについて
 - ④ 採血ホルダーの使用・消毒方法、血糖測定用採血器具の使用の確認
 - ⑤ ウェットクロス導入 (注射準備台の洗浄)
 - ⑥ 環境培養の実施
→ グラム陽性桿菌、コアグラージェ陰性ブドウ球菌などを検出
環境整備の徹底
- 5) 呼吸器関連
 - ① 吸引手順の検討、手順書の作成
 - ② ネブライザーの点検、整備 (ME へ依頼)
- 6) 安全器材、針捨て容器の検討
 - ① エラスター・翼状針の現在使用分と他社製品の比較・検討を行う
 - ② 針捨て容器の使用状況、問題点について
- 7) 滅菌物の保管状況のチェック
- 8) 針刺し・切創事故の発生状況の報告
 - ① 事故後の対応 (現状、問題点、処置など) を確認

- ② 針捨て容器の持参を徹底
- ③ リキャップ禁止の徹底
- 9) 新型インフルエンザ対策について
 - マニュアルの周知徹底
- 10) 流行性ウイルス疾患のワクチン接種
 - インフルエンザワクチンの接種・呼びかけ
- 11) ノロウイルス感染対策について
 - ① 有症状者の把握・報告
 - ② 手洗い、消毒方法、汚物・吐物の処理方法、環境面の清掃についての確認
- 12) 疥癬対策
 - ① 有症状者の把握・報告
 - ② 手指衛生の徹底、環境面の清掃についての確認
 - ③ 予防内服投与について
- 13) 院内・院外研修への参加、案内、報告
 - 感染管理研修の出席状況、未受講者への呼びかけ

看護部部署別目標

2 病棟

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	<p>患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇・救急医療 ・専門医療の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんが満足する入院生活の提供・安全な医療の提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・気持ちのよい挨拶・患者 ・家族の話しを傾聴し、丁寧な言葉使いに対応 ・患者、家族へ統一した看護の提供 ・安全な看護技術の提供・接遇研修の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備に関しては朝スタッフ全員で3分間清掃を開始した。意識付けにつながっている。 ・挨拶に関しては患者アンケートにより良い評価を頂いています。 ・安全な技術の提供に関してはインシデントレポートも提出され皆で共有し改善につながっている
独自能力	<p>高度専門医療と24時間体制の救急医療</p>	<p>個々のスタッフレベル向上のため研修参加や学習環境を整える</p>	<p>勤務者以外勉強会100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1回/週外科カンファレンスの参加 ・1回/月勉強会の参加(病棟会) ・院内全体研修の参加(5回以上/年) ・院外研修の参加(1回以上/年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回の外科カンファレンスは80%実施できている ・月に1回の勉強会は100%達成 ・院外研修参加者も増加
社員重視	<p>働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場</p>	<p>スタッフ間で協力し残業が少なく、有給休暇を取得しやすい環境作り</p>	<p>有給取得率50%以上</p>	<p>業務の見直しと有給休暇取得の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しは改善委員会のスタッフと協力し、物品の補充などを行っている。 ・有給休暇取得率は60%、スタッフが最低1回/月は取得できるように調整している。
社会との調和	<p>病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する</p>	<p>緩和カンファレンスを継続し、在宅看護への推進</p>	<p>6回以上/年参加</p>	<p>月に1回の緩和カンファレンスの継続 コメディカルとの情報交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MSWとの調整は毎朝行っている。退院調整会議を設定し、終末期の患者さん2名を在宅での看取り支援ができた。

3 病棟

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	患者の話を傾聴し、満足される看護を行う	アンケート結果が5~4	①患者自身の思っていること、問題が表出できるようなコミュニケーションをとる ②カンファレンスによる情報を提供し、統一した看護をする ③受け持ち看護師として自覚し、責任をもってケアをすすめていく	アンケート結果は大部分が満足、やや満足であった。朝一番にその日の受け持ち患者さんの所へあいさつに行く事は徹底できている。しかし、トータルの受け持ち患者さんへのあいさつ等はあまりできてなく今後の課題である。
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	疾病を正確に理解し、観察できることで、看護のレベルアップができる	研修会参加 100~80%	①定期的な勉強会へ参加する ②院内研修会参加と伝達を行う ③院外研修会参加と伝達を行う ④カンファレンスの徹底とフィードバックを行う ⑤BLS1回/年全員参加する ⑥受け持ち看護師が看護を率先する	全員必須参加の医療安全、BLS研修は参加できたが、感染管理研修会が2名参加できてなかった。各スタッフが受講した院外の研修会等は病棟会で伝達報告会を行った。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	みんなで協力し有給休暇を消化する	有給休暇消化100%	希望を聞き、勤務調整をし、勤務表の作成を行う	有給休暇は1~2回/月本人の希望で勤務表に組み込み消化できている。スタッフもお互い協力し忙しいが消化できる方が良いとの発言もあった。
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	他職種とのチームワークを図り、地域医療に貢献する	地域へ退院する割合 100%	①MSWと連携を密にする ②患者や家族の情報収集に努め、希望を尊重する ③敬和会学会や健康フェスタに参加する	MSWと連携を密にとれ患者さんにとってより良いサービスは実現できていない。他部門、特にリハビリ室とは朝の申し送りに参加し、カンファレンスを毎日持ち、情報の共有ができた。③は参加できなかったのので、H21年度に再度目標とした。

4 病棟

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	・患者さんが安心、満足して治療臨める病棟作り ・責任と質の高い継続看護	80%	・ナースコールにすばやく責任をもって対処する ・丁寧な言葉使いで対応する ・患者把握をする(固定チーム、ケアカンファレンスの充実)	・ナースコールがPHSに切り替わり早い対応ができるようになった。丁寧な言葉使いに対しては病棟アンケートの集計結果に對しては病棟アンケートの集計よりクレームが少なくなった事でほぼ対応できたと思います。・カンファレンスはほぼ毎日実施したが、統一看護での提供に関しては到達できなかった。
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	・看護職として一定レベルの知識、技術の再構築 ・救急病院としての役割を果たせるレベルの知識、技術の獲得 ・整形外科病棟における専門的知識及び技術の獲得	50%	・院内研修への参加率の向上・院外研修への参加を促し、フィードバック体制を充実させる ・経験年数に合わせた知識 ・技術の取得度に対し、チェックリストを作成し、病棟全体の能力向上を図る	・院内研修→全体研修は100% (必須) その他研修会は40%の参加率であった。 ・院外研修に参加した者に対しては病棟会などで発表してもらいフィードバックを行った。 ・新人に対しては技術取得度は明確であった。 ・中堅のチェックは実施できていない。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	・時間内に業務が終わるようスタッフみんなで協力する ・リフレッシュ休暇がとれる	60%	・業務開始前にチームで役割を分担し、能率良く時間内に終業できるように協力をする ・毎月コンスタントに1人1~2回の有給休暇を消化する	・TQM活動の項目にも上げていたので協力、実現できたと思います。 ・有給休暇に対しては、スタッフの十分な余裕がなく1~2回/月を全員には困難であった。
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	・他部門、他施設との連携をスムーズに行う・病院行事や地域行事に積極的に参加し、医療を通じて地域社会との調和を保つ	100%	・リハビリスタッフやMSWとのカンファレンスを充実させ、患者の社会復帰をスムーズに行えるように連携を図る ・患者や家族に対する関わりを深め、退院後の生活を視野に入れ、ゴール設定を行う・病院行事、地域の行事には積極的に参加をする	・リハビリ、MSWとのカンファレンスは2回/週実施できており、共有した目標設定に向けて連携は十分図れた。

5 病棟

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる 病院・安心で安全の高度医療の提供・アメニティの充実・行き届いた接遇・救急医療・専門医療の充実	患者さんが安心して安全な治療・看護をうけることができる。		・接遇、治療、看護においてアンケートより良い結果を得ることができる。・患者、家族と積極的に関わりコミュニケーションをはかる。・入院時の看護計画立案、カンファレンス、評価を徹底する。(オーディットの活用6人/1月以上)・感染対策の徹底(手洗い、手指消毒の励行)・医療安全の充実(転倒、転落の防止)	・アンケートよりまずまずの結果を得る事ができた。今後も患者さんに満足を得られるような看護を提供する。・看護記録監査(オーディット)は十分できていない。・手洗い、手指消毒はまだ十分とはいえない。一処置、一手洗い(手指消毒)を徹底させる
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	各人が心血管センターのスタッフであるという自覚をもち、知識、技術の向上に努めることができる。		・循環器、心血管外科の専門的知識を深める。1回/1月の勉強会を年間計画をたてて行う。・急変時(緊急時)の対応の充実。ICLSへ全員参加。緊急薬品の理解を深める。・院外の研修会へ積極的に参加し、病棟内で伝達講習を行う。	・勉強会までできているがもう少し知識、技術の向上に努力が必要である。・院外の研修会への参加を今後行ってきたい。・伝達講習も少なかつたので、積極的に行ってきたい
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	ゆとりある勤務体制		・時間外勤務の減少。・平等な有給取得率。・2交代勤務の検討。	・今年度2交代勤務変更し、夜間帯に關しての時間外勤務は減少した。・有給取得率は約60%できている今後も継続してきたい。・2交替勤務継続する。時間外勤務も減少し、スタッフの評価も良好である
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす地域社会に貢献する	他部署とコミュニケーションを密に連携をはかる。		・他部門とお互いに申し送りを密に行い、連携をはかる。・心血管センター市民公開講座2回/年に積極的に参加し、協力する。	・今後も他部署との連携を密にことり、スムーズに対応できるよう頑張っていきたい。・市民公開講座に参加協力できた

ICU

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	保清ケアの充実患者・家族の精神的ケア	100%	毎日の保清来た時よりも美しく退出患者・家族に接する時間を多くし出来る限り話を聴き、説明や先生との橋渡しをする	忙しい時は保清ができないこともありましたが、その他はまあまよかったと思います。
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	ICU管理規定の対象患者が出来る限り入室出来るようにベッコントロールする	100%	各部署との連携を密にし入室・退出のコントロールを行う	マキシロ手術後の患者さんに関しては、当日退室なども行いましたが、入室できない事がありました。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	働きやすい職場にする	80%	有給休暇の100%消化全員がリフレッシュ休暇をとる疲労の少ない勤務体性を考える	なるべく有給を取れるようにしましたが、全員が100%とはいきませんでした。また体調を崩し、何人かが長期に休むことも発生しました。
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	岡病棟の広報活動に協力する	80%	地域との関わりのある病院行事には出来る限り参加する	「敬和の環」や「おかのかお」の広報活動に協力する事ができました。

マキシロフェイシャル

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院（安心で安全の高度医療の提供アメニティの充実行き届いた接遇救急医療・専門医療の充実）	マキシロ職員全員で患者個人を尊敬、理解し支え、かけがいのない人間として捉え、あたたかな関係作りから患者自身の持っている能力を引き出す。	・患者満足度アンケート	＜共通＞①明るく笑顔で接する。②担当制を継続し、患者との信頼関係を築く。③患者が話しやすい環境を作る。 ＜医療技術＞①効率の良い歯磨き指導をし、セルフケアの確立を促し、定期的なメンテナンスを行う。②機能的、審美的な補綴物の製作。（高いレベルでのインプラントやセラミック	共通の①～③は達成できたと思うが、患者満足度アンケートの実施をしていないため、客観的評価ができなかった。技①実行できて、患者のモチベーションが上がっており、口腔内の改善がみられた。②インプラント施行後などに患者より満足との声が開かれた。
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	・高度専門医療（インプラント、顎変形症、口唇口蓋裂）の地域への周知、又、安全かつ効率的に行う。・スタッフの専門性を深め、業務に対する意欲を高める。	・手術件数（昨年より増加したか）・患者数（新患も含め） ・勉強会、学会への参加率	＜共通＞①広報活動②業務の効率化・ルールの物品の見直し・予約のとり方の工夫・ルームの使い方の工夫 ③勉強会、学会への参加 ＜看護＞①歯科治療への関わりを深める（物品準備、第2アシスタント）	＜共通＞①ラジオの効果が大きかった。②TQMIによってかなり効率化がはかかった。予約のとり方については今後検討する必要がある。③参加は個人差があった。今後積極的に参加できるよう内容の紹介や勤務時間を考慮しながら関わっていく。 ＜看護＞①物品準備も第2アシスタントも積極的な関わりができなかった。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	スタッフがきちんと休息がとれるようにする。	・昼の休憩時間・残業時間	＜共通＞①休憩場所の確保②スタッフの調整（早入り、遅入り）	①マキシロ以外の場所の確保は困難だった。昼休みが短く、また呼ばれる事があり食堂へも行けなかった。②予約や担当制を考慮しながら早入り、遅入りを決めたことで効率のアップはつなげた。
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	個々の習得した知識、技術を地域社会へ提供する	・講演会の開催状況 ・親の会の開催状況	＜看護＞①口唇口蓋裂親の会の活性化・勉強会の開催 ＜医療技術＞①歯科医療従事者等に対して専門的知識の提供及び啓蒙活動。②公民館での講演活動。③母親教室への参加	＜看護＞①4回/年の勉強会も実施でき、交流会も充実していた。ホームページの充実までは至らなかった。 ＜技術＞①～③全て達成 この他に病院スタッフ（Ns、ヘルパーなど）への教育的関わりができた。

外来

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	患者さんを中心に安心して安全な医療・看護の提供を行う		・待ち時間の短縮のため、アメニティの充実 ・丁寧な対応、気配り、目配り、心配りをする ・安全対策の徹底 ・清潔感を大切にする	待合室の書籍の充実（マンガ以外）が図れた。待ち時間の長い方や体調の悪い方などへの声かけ、ベッド誘導も実施できていた。
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	緊迫感・責任感を持ち安全・安楽な専門医療の提供を行う		・全ての患者の受け入れ、断らない ・他部署との連携を密におこなう ・エキスパートナースの育成・研修会への参加	各自が取得したいライセンスや興味のある研修へは積極的に参加していた。他部署との行き違いは多少あったものの、おはつた連携はとれていたと思う。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	楽しく・明るく・思いやりのある職場環境をつくることができる		・業務改善・スタッフ増員と給与見直し ・有給消化率100%・リフレッシュ休暇をとる・スタッフ、コメディカルの円滑なコミュニケーション	有給消化はできていると思う。リフレッシュ休暇を全てのスタッフに与えられなかった。
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	地域中核病院としての意識を自覚し、地域の人々が安心して医療を受けることができる		・紹介患者のスムーズな受け入れ ・地域連携病院との情報交換 ・広報活動（院内・院外） ・市民公開講座への協力	心血管センターの市民公開講座のお手伝いは協力できていた。紹介患者の受入もできていた。

透析室

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	1) 患者の話を傾聴し、安心して治療が受けられる環境を提供する 2) 急変時の対応が確実に行える 3) 患者の自主的行動の支援	100% 50%	1) 全患者への声かけ、コミュニケーションを取る (100%) ・患者情報の共有 (100%) ・治療中の環境整備 (100%) 2) 状態観察を十分に行い、予測ある看護がせきる 3) 患者自身で考え行動の取れるように指導・支援する	・あいさつ、バイタル測定時などを活用し、全員にコミュニケーションがとれる。 ・業務体制が早出、遅出に変わり、情報伝達方法の検討が必要となった。 ・個々に合わせた空調管理が困難なため今後の検討である ・状態観察、検査結果などから積極的にケア、看護ができていく ・個別に説明し、外来受診体制を理解しているが、依存性が強く行動変容には至っていない
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	専門的知識の習得		・自己学習 (全員 100%) ・1/1勉強会 (100%) ・研修会、学会への参加 (院外年一回) ・院内研修会の参加 (100%) ・BLS研修1/年参加 (100%)	・看護に必要な部分では個々に学習努力はしている。勉強会は看護部のみではあまりできていない。・院外研修参加80%・院内研修参加70%・BLS100%
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	・有給休暇を消化する ・時間内に業務を終了する ・残業時間の減量	80% 100%	・勤務上支障のないようにスタッフ間の協力により有給をとる ・計画的なリフレッシュ休暇をとる ・急患対応の居残り時間の見直し ・業務分担の明確化とチームプレーの充実	・月1~2回の有給消化、また支障のない限り希望した日数を消化できている ・リフレッシュ休暇は計画的に困難 (常勤であるが常勤勤務を考慮しているため) ・勤務体制の変更、早出・遅出によるリーダー分担とし、時間外の対応も明確となり残業も減少した
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	・他施設との連携がスムーズにとれる ・他部門との情報の共有 ・在宅支援に対し社会的資源の活用促進		・入院予約、書類 (紹介状・透析記録) の連絡窓口の一本化 ・他透析医療機関との円滑な連携 ・MSWとの連携の強化 ・社会資源の活用・病院学会、公開フォーラム、健康フェスタ等の病院行事への積極的参加	・他施設への情報提供、退院時の書類処理など100%できている ・透析担当のMSWは少ないが、必要時この連携が取れている。 ・病院関連の行事への参加60%できている

手術室

	理想的な姿	部署目標	目標値	具体的行動目標	評価
顧客本位	患者さんの期待に応えられ、また患者さん中心の医療がおもてなしの心を持って提供できる病院 ・安心で安全の高度医療の提供 ・アメニティの充実 ・行き届いた接遇 ・救急医療 ・専門医療の充実	患者が安心安全に手術が受けられる		・手術に付く看護師が術前術後訪問を行う ・手術器械のメンテナンスの徹底 ・確実な洗浄、滅菌 ・SSIの実施 ・褥瘡対策の実施	・術前術後訪問は50%行っている ・器械メンテナンス、洗浄、滅菌に関しては積極的に勉強を行い実践している。今後も継続的にしていきたい
独自能力	高度専門医療と24時間体制の救急医療	専門知識の向上統一した看護の実施		・積極的に院内外の研修の実施、参加 ・月1回の勉強会の実施 ・マニュアルの作成、変更・緊急OPに対応出来る物品管理	・手術マニュアルは定期的に入れ替えを行っている。今後も続行 ・月1回勉強会の実施を継続する ・積極的に院外研修の参加を行ってきたい。 ・現在までに緊急手術を断るような事は発生していない。可能な限り調整し受入していく。
社員重視	働く人々のワークライフバランスを重視し、1人一人がいきがいを持って働ける職場	ゆとりある勤務体制		・体調の自己管理・医師とコミュニケーションを円滑にし協力を得る ・勤務時間内での手術 (定例)	・各部署、医師との連携はとれているがシステム化されていない。連絡体制、情報の1本化を整えたい。 ・予定手術に関して計画性がなく、急にキャンセルになり、物品の無駄が出る事があった
社会との調和	病院としての社会的責任を果たす事で地域社会に貢献する	各部署との情報の共有各部署とのコミュニケーションを円滑にする		・窓口の一本化・委員会への参加 ・院内行事への参加	手術予定 (スケジュール) を調整し委員会等に参加できている。継続していきたい。

コメディカル部門活動

臨床検査室

概要、構成、スタッフ：

検査技師数：16名（夜間当直1名・緊急冠動脈造影検査1名）夜間夜勤者対応オーバー時にはONコールにて応援対応可能

1) 検査内容：

- (1) 【検体検査】生化学検査・血液検査・一般検査・血清検査（輸血含）細菌検査・病理検査
- (2) 【生理検査】心電図・脳波・眼底・眼圧・肺機能・抹消神経伝達速度・睡眠時無呼吸検査・ABI・APG SPP・ホルター心電図・トレットミル・心エコー・血管エコー（動脈・静脈・シャント）＊筋電図検査（下顎運動測定器：新規矯正歯科検査）

2) 使用機器：

- (1) 【検体検査】生化学機器2台（Dimension）・血液一般機器2台（SYSMEX XT-1800i・XT-2000i）
輸血関連自動機器（GELSTATION・1台）・BNP（TOSO-AIA360）全血血糖（ADMS-GA1170）
HbA1c（ADAMS-HA8160）・細菌同定・感受性検査（Microscan Walkway）2台体制はメンテナンス時や繁忙時間帯に威力を発揮しています。GELSTATIONは夜間当番者1人で繁忙時の輸血依頼に威力を発揮しています。
- (2) 【生理検査】心電図検査5台（日本光電社）・脳波（日本光電）眼底（コーワ）・眼圧（XPERT NCT）・肺機能（チエストHI-801）・抹消神経伝達速度（日本光電）・睡眠時無呼吸検査（チエスト）・ABI（コーリン・2台）・APG（APG-1000）・SPP（PV-2000）・ホルター心電図5台（日本光電）・トレットミル（フクダ CM-2000）・心エコー・血管エコー（動脈・静脈・シャント）4台（GE vivid 7・vividpro・vivid I・東芝）＊新規筋電図検査（下顎運動測定器：矯正歯科検査）

3) 報告体制：オーダーリングシステム使用・電子カルテにて報告。目標：採血後30分報告。全項目電子カルテにて参照可能

4) 看護支援：病棟予約採血試験管準備

5) 診療支援：夜勤者が早朝より入院検体を処理し結果を8:30まで出しています。

早朝検査結果提供は、主治医が入院患者様への当日治療指示決定が早くでき、8:30より外来患者様への検査に技師も機器も対応でき、患者サービスにもつながっています。

異常値は主治医へ直接報告することで臨床医は早急な対応ができる。血管センター施設として、動・静脈検査機器装備し治療計画・治療評価の判定に役立っています。

心臓血管外科開始にて経食道エコー準備補助・輸血管理を検査室が関与する事で安心して手術していただいています。剖検時検査室にて剖検補助・標本管理・CPC準備しています。

6) 業務管理：各機器管理表作成にて毎日チェック・精度管理参加（日本医師会・日本臨床検査技師会・大分医師会）

7) 安全管理：検体取り違い防止目的にて、採血時、生理検査施行時に患者様自身にお名前を言って頂き、試験管・カルテの名前確認を徹底しています。2008年度は採血受付時に「受け付け番号札・名前印字」を渡し、採血時に提出していただく事で更に名前確認の徹底につなげています。また受付番号が解る事で、待ち時間の推定ができて患者さんには好評です。

生理検査時での転倒防止としてベッドへの移動時の介助・ベッドの高さ等に配慮し検査室での事故「0」を目標にしています。

8) 感染管理：検体取り扱い時・採血時のグローブ着用、ディスポ採血ホルダー使用、肺機能検査時のディスポフィルター使用など、患者様への感染防止に努めています。

院内ICTとして院内の有用な細菌培養検査結果と院内薬剤感受性率を感染管理委員長に報告管理しています。

9) 環境管理：適正な感染廃棄物処理

検体の廃棄はゲル状に固めて感染廃棄専用の廃棄処理。

細菌検査処理検体は滅菌後感染廃棄専用の廃棄処理をする。

2009年度目標：

検査業界は検査点数改正の度に下降し、検査課もブランチに変更する施設のある中、社会医療法人・二次救急病院検査室としての責務を果たせるのは、院内スタッフであるからこそできる動きが沢山あります。研修に理解があり、症例に遭遇できる施設の中で医療従事者として働けることを今一度感謝し、絶え間ない自己研鑽と課内の「和」を尊重する。

岡病院検査室から細胞診検査業務を開始後1年経過し、敬和会に専従の病理医を迎えることができ、臨床に柔軟に対応できる病理部門の構築と、東部・岡の合同手術症例検討会の開催。

岡・東部の更なる協調にて施設間での共同業務の意識向上となる運用を構築していきたい。人材効率を考え、東部・岡検査技師の移動や繁忙期の人材補助の積極的な交流システム推進。

診療支援として、必要項目の院内迅速検査への変更取り組みや、電子カルテ変更による画像取り込みなど更なる働きやすい環境へ飛躍する事を今年期待しています。

地域医療支援病院の診療支援部である臨床検査室は、医療事故「0」を目標に、検体検査30分報告の維持。

血管センターの一員として、患者様に無侵襲で検査できるエコーを始めとし、他検査と総合的診療支援に努める。

検査システム更新にて、新規に血液一般検査機器シーメンス社ADVIA 2120iの導入にて網状赤血球の造血状況がより詳細に解るために、透析患者さんの造血剤使用の軽減につなげる。

研修会参加伝達の徹底と検査室研究発表会の開催

院内広報活動に協力し、院内の融合を図りお互いに質の高め合える環境を作る。

資格認定取得や学会発表・研修など人材育成がしやすい環境作りに努める。

実習生（後輩の育成）受け入れに協力する。

医療に対する患者様のニーズは変わり、これからも変化するニーズに柔軟に対応し、受け入れる姿勢を維持する。

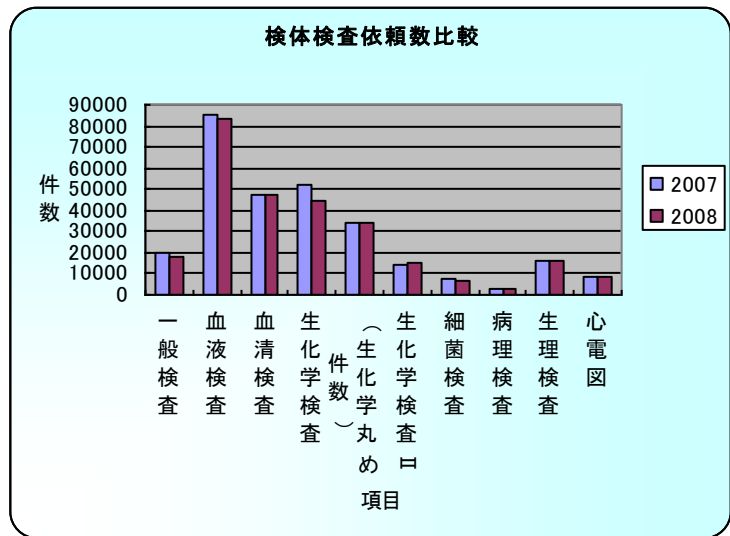
2008年度実績 ①：精度管理参加結果

日本医師会・・・97.2点（100点満点）

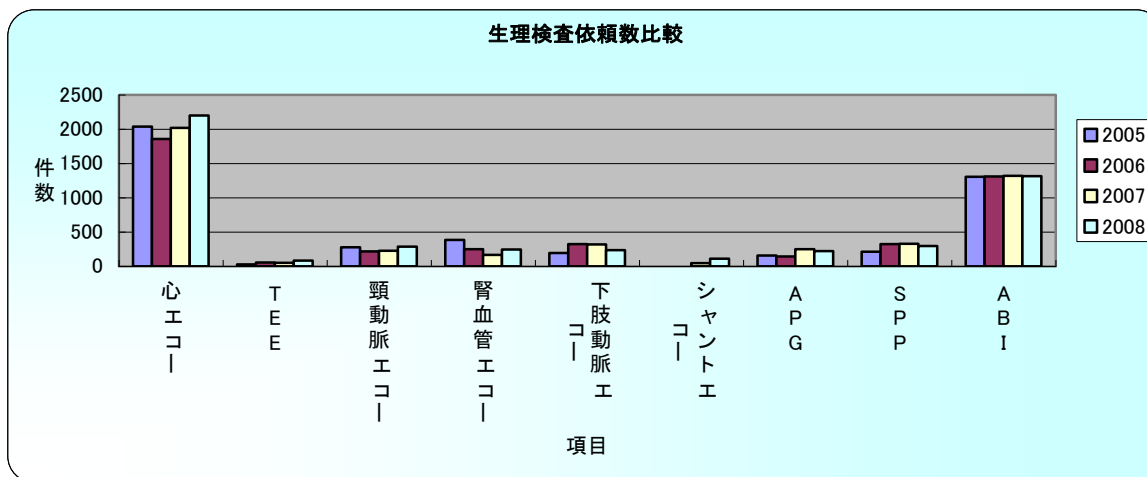
日本臨床検査技師会・・・96.2点（100点満点）

2008年度実績 ②：

	2007年	2008年
一般検査	20092	17675
血液検査	85037	83173
血清検査	47840	47471
生化学検査	52337	44911
(丸め件数)	34284	33720
生化学検査Ⅱ	14072	14719
細菌検査	7456	6805
病理検査	2755	2545
生理検査	15675	15772
心電図	8544	8542



	2005年	2006年	2007年	2008年
心エコー	2035	1856	2020	2198
TEE	29	54	53	84
頸動脈エコー	277	216	225	288
腎血管エコー	383	251	166	247
下肢動脈エコー	195	323	320	237
シャントエコー			44	111
APG	158	143	252	224
SPP	212	325	331	297
ABI	1304	1308	1318	1314



学会発表 その他：

臨床血管障害フォーラム実技指導 伊東技師・椎原技師・板井技師

検査研修会開催：

後藤技師：医療メデイエーション

板井技師：BNP と心臓収縮能・拡張能を比較して

斉藤技師・椎原技師：CK-MB 測定値が総CK 活性値よりも高値を示した2 症例

三重野技師・桑野技師：外来患者の検査所要時間の現状

角矢技師・鶴飼技師：検査室環境衛生調査

松川技師・伊東技師：心臓カテーテル中の心電図変化 ～不整脈・伝導異常について～

堤技師・藤原技師：心臓外科手術での輸血使用状況

検査分野ごとの研修会：普段携わらない検査をお互いに理解するために

12月 生理検査：SAS

1月 生理検査：NCV

3月 細菌検査：細菌培養検体処理

2月 病理検査：細胞診検査業務の流れと処理方法

実習生受入状況：

文理大学医療専門学校 2名 (国家試験合格)

栄養部

概要、構成、スタッフ：

病院管理栄養士：4名 委託業者(株)レオック西日本 管理栄養士：2名 栄養士：1名 調理師：4名 調理員：10

入院患者の食数管理、栄養管理を中心に業務を行っている。栄養管理については、栄養士が直接患者と対話し、全入院患者を対象に栄養管理計画書の作成を行ない、個々の疾病や状態に合った食事を委託業者と協力して提供していく。NST 活動では、チーム医療の一員として、ラウンドへの参加、栄養状態の判定、食事内容の検討を行っている。栄養状態不良の患者に対し、主治医、看護師、薬剤師、言語聴覚士、臨床検査技師など多職種との連携をとり栄養管理を行なう。必要な患者に関しては栄養指導を行ない、栄養治療の必要性を認識させ行動の変容に継げることができるようサポートする。また、新たに心臓血管外科リハビリテーションチームのメンバーとして活動を行う。後期高齢者に対しては低栄養や疾病の重症化を防ぐため、退院後の適切な食事管理について指導及び情報提供を行ない、日常に即した食事に継げる事を目的とする。また、集団栄養指導を通じ、入院患者をはじめ、地域住民との関わりを深めている。

2009 年度目標：

1. 入院・外来栄養指導 200 件/月
2. 後期高齢者退院時栄養・食事管理指導 30 件/月
3. やわらか食の確立

2008 年度実績：

1. 訪問件数 7183 件

入院栄養指導件数 1190 件
外来栄養指導件数 485 件
集団栄養指導件数 82 件
後期高齢者退院時栄養・食事管理指導 191 件

2. NST 介入件数 26 件

3. 資格取得

保健指導実施者の育成研修プログラム終了

藤田 知子 金澤 孝浩

4. ボランティア 金澤 孝浩

『青い炎の底力フェア』にて 栄養相談、子供への食育

4. 市民公開講座講師 萱島 由布子

2007/5/25 オアシス、9/7 鶴崎、12/7 竹田

2008/3/29 三重 計4回

5. 勉強会講師

2007/11/30 勉強会講師 萱島 由布子

大分岡病院 腎友会 第6回勉強会 動脈硬化症予防について・透析食の試食と解説

6. 院内発表

2008/2/10 『後期高齢者栄養・食事管理指導の実施報告』 長尾 智己

4. 実習生受入状況：

別府大学：3名 中村学園大学：1名 西南女子大学 2名

中村学園大学短期大学部：1名 別府大学短期大学部：2名

ME部

概要、構成、スタッフ

臨床工学技士 10名 (内、産休者1名) 透析室 看護師 6名 ヘルパー1名

外来透析患者数 49名 入院透析患者数 15名程度

透析コンソール 28台 単身用透析装置 2台

透析時間 月～土 8:30～19:00 2クール体制 緊急対応可

カテ室 循環器科カテ (火・木・金) 緊急対応可

手術室 一般手術機器準備 人工心肺操作 緊急対応可

ME 機器管理室 人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器 各種モニター管理、等

高気圧酸素治療室 1種(単身用)2機 緊急対応可

2009年度目標

①患者さんの安全を第一に考え、高度な医療技術の提供ができるよう努める。

②常にコストパフォーマンスを意識した業務を心掛ける。

③ME業務のみに限らず、笑顔で迅速な対応を行う。

2008年度実績

人工心肺操作 38症例

総透析件数 8927件 (外来透析：6776 入院透析：2151)

紹介透析患者数 211症例

紹介内容：循環器科(116) 創傷センター(20) 心臓血管外科(55) 整形外科(11)

消化器外科(2) 呼吸器科(4) 脳外科(3)

持続緩徐式血液濾過透析 38症例 158回

透析導入 21名

高気圧酸素治療 救急 20症例・111回 非救急 45症例・988回

学会発表

2008/10/2 第5回大分フットケア研究会 「透析室におけるフットケアの課題」 上野 征一

口演・講義・指導

2008/10/25 透析連携施設勉強会 『シャント穿刺とトラブルスコアについて』 後藤 公成

2008/4/27 大分岡病院 腎友会 第6回総会口演 『後期高齢者制度について』 岡病院医事課長 高宮 秀朝

投稿・著書

大分県腎臓病協議会会報 ゆふ 『シャント管理について』 後藤 公成

実習生受入状況

大分県臨床工学技士専門学校 9名
 日本文理大学医療専門学校 臨床工学科 4名

放射線部

1. はじめに

2008年度の放射線部は、医師2名、診療放射線技師11名、事務員2名、放射線部看護師（外来所属）3名を合わせた18名で構成されている。以下に2008年度の活動を紹介する。

2. 安全管理体制

放射線部は例年通り大型装置の取り扱いによる患者への障害が発生しないように、装置の安全管理（保守点検や日常点検）や取扱に注意するよう努めた。また被ばく低減についても昨年度に引き続き、各モダリティごとに十分配慮できるように努めた。

3. 業務体制強化

通常業務および当直業務に関わる人員は昨年度と同様で変更はないが、それぞれの技師が技術の向上はもちろんのこと扱えるモダリティを増やすことに努めた。また当直技師および待機技師の対応可能な検査の充実を図る為、MRI装置の撮影技術習得や、血管造影検査の前準備の実施など緊急検査の迅速対応範囲の拡大に努めた。

4. 業務運用

本年度は昨年度より行ってきた画像サーバーの更新作業が完了し5TBから10TBの新型画像サーバーへと移行した。これに伴い画像閲覧に必要な時間の短縮を図り、実運用面での作業効率の向上を実現した。また画像診断管理加算2を取得するべく、遠隔診断システムを導入しCT/MRI検査（オープン検査を含めて）の読影を翌診療日までに8割以上実施できるシステムを構築した。これにより画像診断管理加算2の取得を可能とした。

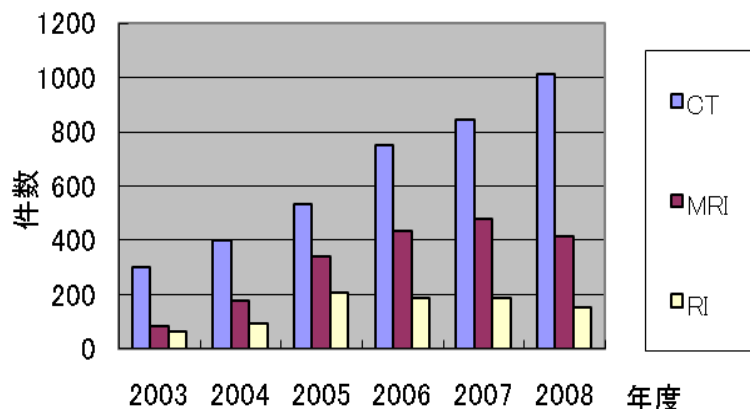
また本年度の目標としていた人材育成の一環である月1回の部内会議を勉強会の場として、全ての技師が持ち回りで発表を行い、個々のスキルアップや技術および知識の共有を図ることができた。

2008年度実績

<検査件数>

一般撮影	18,482	パノラマ	1,426
CT	6,693	US	1,431
MRI	1,937	骨塩定量	135
DR	359	時間外	2,564
RI	264		

<オープン検査件数推移>



2009年度目標：

来年度は4月から救急搬送の受入制限が解除となる為、昼夜を問わず救急患者の増加が予想される。これに伴い通常業務に加えて救急対応も実施せねばならず、スタッフの負担増加が懸念される。そこで4月には2名の技師増員を実施し、今後の救急医療への対応を充実させる。

また昨年度実施できなかった全画像のフィルムレス化を実現するべく、各診察室などの読影環境整備を行わなければならない。

人材育成に関しては、昨年度より実施してきた月1回の勉強会をさらに充実するべく、部内スタッフだけでなく、部外もしくは院外から講師を招くなどして、更なる撮影技術向上や標準化に向けた取り組みとするほか、各種学会や研究会などへ積極参加（発表を含め）し、放射線部内のスキルアップに努める。

薬剤部

私たち薬剤部では入院患者さんの薬物治療に薬剤師が積極的に関わるように努めています。

「医薬品の適正使用」を目標に、ひとり一人が今できること、そこから始めていきます。

薬剤部の職員は、薬剤部長・課長・係長・薬剤師、計11名及び薬剤助手1名です。

2008年度実績：

薬剤管理指導関係：薬剤管理指導件数 3287、麻薬管理指導加算件数 37、

退院時服薬指導加算件数 1797、後期高齢者退院時薬剤情報提供件数 37、

・注射関係：無菌製剤処理件数 2381、無菌製剤処理件数（悪性腫瘍剤）387、

・処方箋枚数：入院 38120、外来（院内）4634、

・注射箋枚数：入院 56689、外来 10230

概要、構成、スタッフ

私たち薬剤部では入院患者さんの薬物治療に薬剤師が積極的に関わるように努めています。

「医薬品の適正使用」を目標に、ひとり一人が今できること、そこから始めていきます。

薬剤部の職員は、薬剤部長・課長・係長・薬剤師、計11名及び薬剤助手1名です。

2009年度目標：

1. 入院患者さんに対する薬剤管理指導業務の量的拡大・質的向上

1). 多くの患者さんにおいて入院時からの薬剤指導管理業務の全病棟での展開

2). 救命救急領域（当院ではICU）での薬剤指導管理業務（＝薬学的管理）の開始

2. 各病棟別等のD I 実例集の構築

2008年度実績：

薬剤管理指導関係：薬剤管理指導件数 3287、麻薬管理指導加算件数 37、退院時服薬指導加算件数 1797、

後期高齢者退院時薬剤情報提供件数 37、

・注射関係：無菌製剤処理件数 2381、無菌製剤処理件数（悪性腫瘍剤）387、

・処方箋枚数：入院 38120、外来（院内）4634、

・注射箋枚数：入院 56689、外来 10230

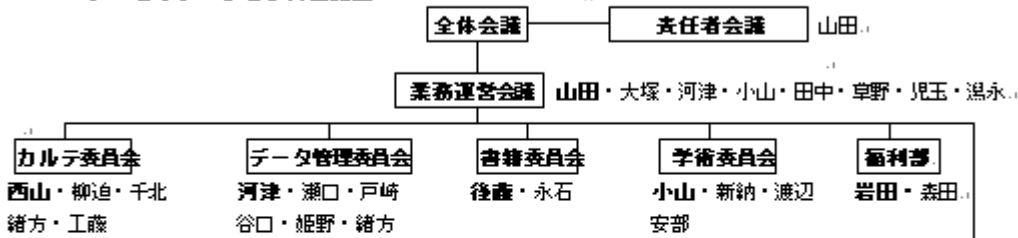
実習生受入状況

九州保健福祉大学 4名

リハビリテーション科組織図

H・21・4・1現在

○ リハビリテーション科会議



○ 病棟担当

- 2病棟：田中・新納・岩田・工藤・山添
- 3病棟：戸崎・瀬口・森田・永石・姫野
- 4病棟：後藤・柳迫・千北・谷口・渡辺・池田
- 5病棟：河津・西山・安部・保田

○ 外来担当

- PT：大塚・宮川
- OT：山田・甲原
- ST：小山

地域リハ委員会

- 山田・大塚・田中
- 甲原・宮川

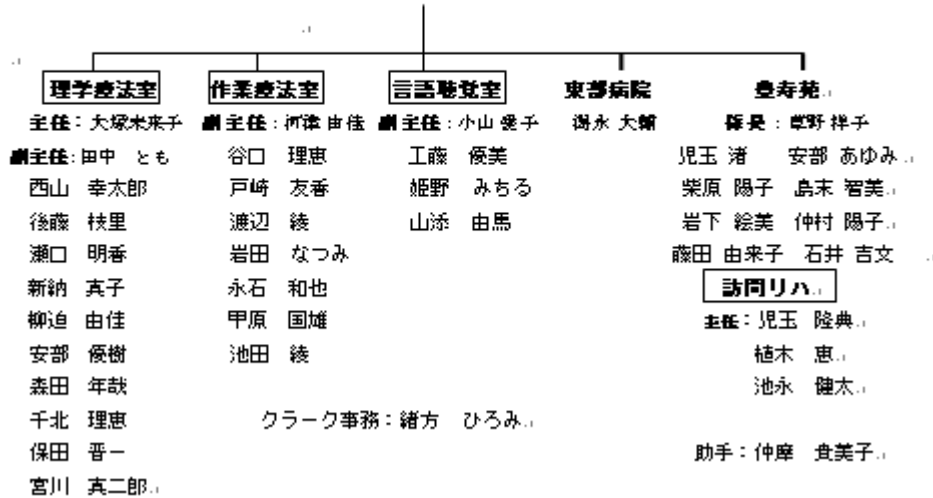
○ 院内委員会

- 診療情報管理委員会 (大塚・西山) 感染症対策委員会 (渡辺・新納) 医療安全委員会 (柳迫・森田)
- 防災避難管理委員会 (安部) 労働安全衛生委員会 (永石) 栄養管理 NST (工藤・姫野)
- 広報委員会 (岩田・瀬口) CS委員会 (河津・谷口) 看護委員会 (田中) ES委員会 (後藤・千北)
- ボランティア活動 (戸崎) 教育・研修 (小山・甲原) 診療情報改善 (山田) DM委員会 (西山)

○ 人員組織図

心大血管疾患：宮本 Dr 脳血管疾患：山口 Dr 運動器疾患：Dr 呼吸器疾患：荻原 Dr

課長：山田 康二



2009 年度目標：

- ・日曜出勤体制の確立
- ・疾患別リハビリパスの作成
- ・急性期リハビリ (早期退院への関わり) 確立

2008 年度実績：

- 1) 脳血管疾患 (I) (延人数)
 - ・理学療法 9010 人
 - ・作業療法 9072 人
 - ・言語聴覚療法 798 人
- 2) 運動器疾患 (I)
 - ・理学療法 8289 人
 - ・作業療法 3433 人
- 3) 心大血管疾患 (I)
 - ・理学療法 3411 人

- 4) 呼吸器疾患 (I)
 ・理学療法 690 人
 5) 摂食機能療法 4575 人

学会発表:

- 2008/8/28 小牧麻美 大分県理学療法士協会大分ブロック第1回症例検討会 大分 移乗につながるアプローチの検討～下垂足に対する装具の検討～
 2009/2/19 森田年哉 大分県理学療法士協会大分ブロック第2回症例検討会 大分 軀幹失調のある症例の理学療法を経験して～立位バランス向上のアプローチ～
 2008/11/22.23 湯永大輔 第30回九州理学療法士・作業療法士合同学会 別府 人工股関節全置換術の侵入方法による歩行の経過について
 2009/2/27.28 柳迫由佳 第7回日本フットケア学会学術集会 神奈川 当院創傷ケアセンターにおける理学療法士の関わり～踵骨難治性潰瘍を呈した症例を通して～
 2009/1/25 岩田なつみ 第12回大分県作業療法学会 別府 当院における呼吸器疾患患者に対するアプローチ
 2008/11/22.23 横山綾 第30回九州理学療法士・作業療法士合同学会 別府 THA術後患者のADL訓練への介入～前方侵入法と後方侵入法の比較～
 2008/6/20^22 戸崎友香 第42回日本作業療法学会 長崎 右半球病巣を有する脳卒中患者における高次脳機能障害とその予後
 2008/6 小山愛子 敬和会学会 口唇・口蓋裂治療の現状と今後の展望～アンケート結果を通して～
 2009/1/25 工藤優美 第7回大分県言語聴覚士会学術研究発表 当院外科病棟におけるSTの介入状況と今後の課題
 2008/11/6 姫野みちる 大分県言語聴覚士会大分ブロック症例発表会 急性硬膜下血腫減圧開頭術後脳梗塞により失語症を呈した一例

講義

- 2008/11/4 大塚未来子・柳迫由佳 第15回日本フットケア学会 大分セミナー 治療のための除圧サンダルと予防のための生活アセスメント
 2009/3/10 大塚未来子 大分市運動推進員連絡協議会主催 運動実施における注意点と効果的指導
 2008/9/12 山田康二 城東・東陽地域包括支援センター主催 地域での連携強化に必要なこと
 2009/2/19 山田康二 大分県社会福祉介護研修センター主催 リハビリテーション研修会

座長

- 2008/6/20^22 山田康二 第42回日本作業療法学会 長崎 感覚・運動・中枢神経の障害7

実習生受入状況:

OT科

- 大分リハビリテーション専門学校(大分県) 長期実習1名 短期実習1名 1年次評価実習2名
 藤華医療技術専門学校(大分県) 長期実習1名 短期実習2名
 大阪リハビリテーション専門学校(大阪府) 長期実習1名

PT科

- 大分リハビリテーション専門学校(大分県) 長期実習1名 短期実習1名 2年次評実習2名
 長崎リハビリテーション学院(長崎県) 長期実習1名
 藤華医療技術専門学校(大分県) 長期実習1名 短期実習2名

- 西日本リハビリテーション専門学校(熊本県) 長期実習1名

ST科

- 大分リハビリテーション専門学校(大分県) 長期実習生1名

委員会活動

	名称	事務局責任者	目的
法人会議	理事会	法人本部	法人本決算、中間決算及び役員報酬に関すること。他に定款に関する内容変更。
	法人経営会議（旧経営会議）	法人本部	財務・経営に関する報告に基づき、短期・中期・長期の事業計画・財務運用計画の進捗状況の把握、見直しと経営方針の決定。次年度の予算及び決算報告。
	経営管理会議	各事務長	月・週・日単位の事業（行事）計画及び実行。予算の確認・決裁・実行。理事長、院長、各部門の週間及び当日スケジュールの確認
	管理者会議	法人本部	院内の行事、経営計画、改善項目（クレーム）など検討項目を共有化し、対策・推進案を協議しつつ起案をまとめる。実施事項の確認など。
法人委員会	人事・労務委員会	人事部長	職員の労務に関する問題点を、就業規則との合理性を含めた検討や、昇格・降格や賞罰に関する事項を協議する。また、働きやすい職場環境を実現（ワークバランス等）するための改良・改善を検討協議する。
	保育所運営委員会（旧次世代育成委員会）	人事部	保育所の運営にあたり、敬和会職員が満足して利用できるよう、現場保育士と協議をし、より良い保育所づくりに必要な項目を検討する。
病院内会議	病床運営会議	看護部長・診療情報部・広報・マーケティング部	当院がDPC 施行病院として適切な運用と、地域医療支援病院としての適切な医療連携ができるように、組織的に入・退院の管理を行なう。
	敬和会連携会議	広報・マーケティング部	敬和会グループとして患者（利用者）の入院（所）・退院（所）状況の共有を行い、施設の特徴を生かし、グループ間の連携に関して、協議・検討を行う
	責任者運営会議	事務長、医事課	病院実績報告。各種会議や各種委員会からの伝達。その他各部門からの報告に基づいて、意見交換を行い、部門間の調整をし、病院全体の適切な運営を図ることを目的とする。
	各部署会議（医局、看護部・医事課・薬剤部・検査課・医療連携課・リハビリ・放射線部・栄養課・創薬センター）	各部署担当者	各部署単位での運営、業務の改善、問題解決などの協議をすることを目的とする。
	教育・研修委員会	看護部長、人事課長	組織人として自覚と責任ある行動がとれる人材を育成することを目的として設置する。
	救急・外来運営会議	救急センター長・外来師長・医事課長	地域医療支援病院としての救急患者の受け入れの構築、ER としての円滑な運営を図る
	ICU 運営会議	ICU 部長・師長	ICU としての円滑な運営と、質の高い治療と救命率の向上を図る
	手術室運営会議	手術室部長・師長	手術室の円滑な運営を図るため、手術計画の作成、機器・材料及び環境の整備、感染対策など協議する。
	透析室運営会議	透析室長	透析室の円滑な業務を推進する上で、問題点の抽出及び改善策を検討し効率的な運営を図る。
	リハビリ運営会議	リハビリ課長	リハビリ室の円滑な運営及び合理性の向上をはかるため、問題点の抽出及び改善策を検討する。
	マーケティング会議	広報マーケティング部	地域のニーズ調査と、それに沿った院内の診療内容の有効的な広報活動を目指す。
	薬事審議会	薬剤部長	病院長の諮問機関として、当院で使用する診断及び治療用医薬品の安全性と有効性に関し調査審議し、医薬品による事故を未然に防ぐとともに、合理的採用と運営により診療活動の円滑化をはかることを、目的とする。
医療材料審議会	購買・物流課長	医療材料の購入、使用ならびに標準化などにかかる事項を審議し、原価意識の向上と医療材料の適正な管理と使用を図る	

	委員会名称	事務局責任者	目的
病 院 内 委 員 会	倫理委員会	事務長、薬剤課長	院内の定める研究責任者の資格を有する医師（担当医師）の行う、人間を直接対象とした医学の研究において、ヘルシンキ宣言（1975年東京改定）の趣旨にそって、倫理的配慮を図りその他、治療上の倫理問題について検討する。
	治験審査委員会（IRB）	創薬センター	研究対象者の権利と福利を保護し、人を対象とする研究の倫理性を評価する
	臨床研修医委員会	人事	新医師臨床研修運営に関する事項を検討。
	医療安全委員会	医療安全管室	医療事故防止のため、リスクの把握・評価・分析・対応にて、医療の質を確保する。また、報告等をもとに安全管理のマニュアル作成と遵守に努める。
	感染管理委員会	感染管理室	委員会は病院長の諮問に応じ、院内感染を予防することを目的とし、その具体案を検討・立案するとともに、その決定により対策を実施する。
	褥瘡対策委員会	褥瘡専任看護師、経理課長	褥瘡対策を討論・検討しその効率的な推進を図るため、委員会を設置する。
	医療ガス安全管理委員会	施設管理部長	医療ガス設備（診療用に供する酸素・各種麻酔ガス・医療用圧縮空気・窒素・吸引などをいう）の安全管理と適切な使用方法の啓発に務め、患者の安全を確保する
	労働安全衛生委員会	医事（神矢）	職員の健康（メンタルを含む）管理、定期的な健康診断を実施するとともに、安全衛生管理に関して職場環境の改善や必要な事項を定める。
	臨床検査適正化委員会	検査課長	臨床検査を適正かつ円滑にするための検討をおこなう
	輸血療法委員会		輸血製剤の適正かつ有効に行なわれていたかの検討・審議する
	防災・防犯・施設管理委員会	施設管理部長	消防法に基づき防災管理業務及び地震防災応急計画について、必要な事項を検討し、非難訓練を計画し、実行することで人命の安全を確保する。他に防犯の検討。
	（診療報酬改善検討委員会）検討？	医事課長	査定及び返戻の金額や率を把握するとともに、内容について十分な検討と適切な改善策を吟味し、再審査請求を組織的に検討する。
	診療情報管理委員会	診療情報管理室	診療情報管理上、診療情報に関する事項を検討、協議することを目的とする。
	栄養管理（NST）委員会	薬剤部長	すべての疾患治療に共通する、最も基本的な医療である栄養管理を浸透させ、院内に確立させることを目的とする。
	栄養改善委員会	栄養室・委託業者	疾病治療に必要な栄養量を供給し、患者さんが満足できる食事を提供するため、計画・調査・改善など必要事項を検討する。
	糖尿病委員会	糖尿病療養指導士	糖尿病及び生活習慣病の対策を討論・検討し、その効果的な推進を図ることを目的とする。
	CS向上委員会	医療相談室	「ご意見箱」の内容吟味や、患者さんの満足度調査をはじめ、医療に係る相談事例に対し情報を共有化するとともに、患者・家族に対する対応の検討及び改善策の立案。
	ES向上委員会	経理	職場環境の問題点の抽出及び改善策の検討・協議
	広報委員会	医療連携係長	院内の資源を適格に把握し、医療連携機関など院内外に広報するため、ホームページや機関誌の発行など立案し、実行する。
	ボランティア活動組織委員会	人事（阿部係長）	患者さんの療養上の援護のため、ボランティア受入れ体制をつくり、積極的な受入れ推進の活動を行なう。また、職員が地域ボランティアにて活動できるような検討や、働きかけを行なう。
	アモティ改善委員会		院内の環境整備（建物、設備、備品等）に伴い、計画的に立案し実行する。
	診断群分類検討委員会	診療情報管理部長	院内で標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、診断群分類による包括請求について、適正な診断を含めた診断群分類の決定が図られているかどうか検討する。
	電子カルテ運営委員会	診療情報管理部長	電子カルテの効率的運用について検討を行うことを目的とする。また、導入についての検討を行う。
からだ情報室運営委員会（図書委員会）	司書	入院患者用の図書の整備及び運営について検討	
がん薬物療法委員会	川副、（医事）神矢、佐藤	院内のがん化学療法に関する事項を審議する。	
災害対策委員会	看護部長、医事課	災害医療についての研修や、訓練の計画及び実施	

医療安全委員会

2009年の目標「マニュアルの周知徹底」

2008年の実績報告（平成20年4月～平成21年3月）

＜医療安全委員会の活動実績＞

- 1) インシデント・アクシデントの収集と分析（年2回の収集結果の報告）
- 2) 事故防止の対策立案施行
- 3) 院内での医療安全教育（全体研修会の企画年2回、その他部署別研修会）
- 4) 医療安全管理者の外部研修、学会等への出席
- 5) 医療安全委員会の開催（1/M）
- 6) 医療安全管理委員会の開催（随時）
- 7) 医療安全マニュアルの改訂（随時）

（内容）

平成20年4月：安全マニュアルの改訂（『組織図』、『毒薬の取扱マニュアル』）

平成20年5月：臓器提供に関するアンケート調査、後に学会にて発表する。

平成20年6月：医療安全全体研修会開催『職員間・医療従事者間のコミュニケーション』

平成20年7月：当院での説明書、同意書の整備状況調査、アレルギー問診票の運用規定作成

平成20年8月：院内暴力対応マニュアルの作成

平成20年9月：院内インシデント・アクシデント報告事例の統計結果の報告

平成20年10月：『さすまた』購入、使用説明（DVD）

平成20年11月：医療安全全体研修会開催『患者・家族との良い関係を築くコミュニケーション』

平成20年12月：「医療の質・安全学会」での報告、「医療メディエーター」について活動内容の説明

平成21年1月：メディエーターの活動報告 「医薬品の安全管理のための業務手順の改定」

平成21年2月：安全マニュアルの改訂（『医療事故公表基準』『チューブトラブルにおける安全マニュアル』）

平成21年3月：平成20年ヒヤリハット報告の集計分析結果の報告

（まとめ）

- 1、平成20年度のインシデント報告は531例、そのうち薬剤関係が180例、次に検査・処置関係が124例、転倒・転落が72例であった。
事故レベルでは、レベル1が288例、レベル2が36例、レベル3が22例であった。
- 2、全体研修会に関しては『コミュニケーション』に関するものとし、出席率は85～90%であった。
- 3、新しい取り組みとしては、医療メディエーターが導入され、医療安全管理室との関わりが構築された。

感染管理委員会

目標・方針

大分岡病院の理念「敬和」に基づき、『患者を守る、自分を守る、仲間を守る』をモットーに院内の感染対策を展開していきます。そして、各部門、各部署からの問題点や改善案をもとに検討を行ないます。

2009年度推進計画

サーベイランスによる感染率の低減

- ① 心臓血管外科、消化器外科におけるSSIサーベイランスの継続
- ② JANISへの参加、報告（SSI部門、ICU部門、検査部門）

マニュアルの作成、改訂

- ① 新型インフルエンザ対策マニュアルの改訂

職業感染防止対策の見直し

- ③ 針刺し当事者に対するフォロー検査の徹底
- ④ 結核曝露後接触者健診

院内ラウンドの再開

職員教育の実施（2回/年）

携協議会の継続

2008年度実績

- 1) SSI、UTIサーベイランスによる感染率の低減

＜心臓血管外科SSIサーベイランス＞

2006年より心臓血管外科手術を開始しており、これまでに数件の術後感染と思われる症例が発生している。そこで、当院におけるベースライン感染率を明らかにし、アウトブレイクの発生を感知するとともに、実践しているケアを評価し、改善及び再強化することを目的に、10月よりサーベイランスを開始した。

結果、術後数件の感染事例と思われる症例はあったが、感染症例の判定ができておらずフィードバックが行えていない。

感染症例の判定はできていないが、術前術後対策をマニュアルに沿って確認すると、改善・検討を要する点が明らかとなった。

改善・検討を要する点は以下の通りである。

①遠隔感染に対する対策

術前に歯科チェックを行い、必要ならば抜歯などの歯科処置を行う

②予防的抗菌薬の種類と投与のタイミング・投与期間

抗菌薬の種類を検討

心臓手術や全てのグラフト手術では、黄色ブドウ球菌とコアグララーゼ陰性ブドウ球菌による手術部位感染が問題となる

術中追加投与のタイミングを検討

一般に半減期の2倍が再投与の指標とされている

追加投与は腎機能に応じて行なうが、閉創2～3時間は血中濃度を維持する必要がある

投与期間を検討

投与期間は長くても3日まで（感染症学会、化学療法学会のガイドライン）の投与が推奨されている

③術後血糖管理

術後48時間までは血糖を200mg/dl以下でコントロールする

（心臓手術に対しては、さらに厳しいコントロールが必要とされている）

④術後創処置

異常がない限り、術後48時間は創を密閉する

<整形外科 SSI サーベイランス>

整形外科における SSI サーベイランスは開始できていない

2) マニュアルの作成、改訂、各報告ルートの特明確化

<新型インフルエンザ対策マニュアルの作成>

12月にマニュアル（案）を作成し、責任者運営会議で各部署の所属長に対しては、新型インフルエンザに対する病院の方針、対策等について説明を行なった。

（作成後も、情勢の変化に応じ随時修正を行なっているのが現状である）

3) 職業感染防止対策の見直し（針刺し・切創事故関連）

職員の針刺し・切創事故後に、患者採血を行なうための検査説明・同意書を作成した。

更に、職員の曝露後フォローアップ検査については殆ど行なえていない（2007年は曝露直後が100%であるのに対し、フォロー検査の実施率は0%）のが現状であったため、当事者が自己管理しフォローアップ検査が確実に行なえるよう、フォロー検査スケジュール用紙を作成した。

また、今年度は院内で疥癬が集団発生したため、曝露者の予防内服等についても検討し、予防内服の流れ、予防内服に関する説明文等を作成した。

4) 職員教育の実施（2回/年）

<全職員対象>

	1回目	2回目
開催日	平成20年7月	平成21年2月
テーマ	医療機関は何故感染管理を行わないといけないの？ 講義＋演習	迫り来る感染症の脅威 ～パンデミックインフルエンザへの対応～
参加率	66.8%（全体）	85.7%

<医師・研修医対象>

開催日：平成20年9月4日

テーマ：「抗菌薬の適正使用」

講師：青木 眞先生
 参加率：63.6%
 <伝達講習>
 開催日：平成20年11月19日
 テーマ：英国感染管理研修報告会（宮本医師、ME 部小野）
 参加人数：31名

5) 連携協議会の継続

月1回、「感染管理担当実務者連携協議会」を実施している。当院を含め9施設の感染管理実践者が参加している。協議会の主な内容は、①各施設での感染管理実践例の報告、②ディスカッション、報告者からの問題提起、③勉強会 等である。

感染管理教育講演会実績

- 1) 日時：2008年5月1日 18時～19時
 テーマ：「尿路感染防止対策」
 講師：土井 英史 先生
- 2) 日時：2008年8月7日 18時～19時
 テーマ：「血管カテーテル関連血流感染防止対策」
 講師：土井 英史 先生
- 3) 日時：2008年12月4日 18時～19時
 テーマ：「人工呼吸器関連肺炎防止対策」
 講師：土井 英史 先生

年間活動実績

<院外>

氏名	表題名	発表誌名・主催等	年月日	開催地等
幸 直美	適切に感染管理を遂行するために必要な基礎知識	大分 滅菌・および感染対策研究会	2008年6月14日	大分県
幸 直美	院内感染予防とノロウイルス対策	大分県東部保健所国東保健部	2008年12月12日	大分県
幸 直美	感染管理の基礎	中部保健所	2008年12月15日	大分県
	～標準予防策を中心に～	由布保健部		
幸 直美	食中毒・感染症の対処と予防	(財) 介護労働安定センター大分支部	2008年12月17日	大分県
幸 直美	手術部位感染予防ケアバンドルの導入と評価	日本環境感染学会総会	2009年2月28日	横浜市
幸 直美	針刺し・切創の曝露後フォロー体制改善への取り組み	日本医療マネジメント学会	2009年3月7日	大分県
	～検査スケジュール用紙導入とその効果～	大分支部学術集会		
幸 直美	感染管理の基礎	別府中央病院	2009年3月27日	大分県
	～標準予防策を中心に～			

<院内>

氏名	表題名	年月日	対象
幸 直美	新入職員、中途採用者オリエンテーション	2008年4月	敬和会全体の新入職員
		臨時	大分岡病院中途採用者
幸 直美	実習生オリエンテーション	臨時	全部署実習生
幸 直美	他院の感染事例から学ぼう	2008年6月26日	大分岡病院、大分東部病院大分豊寿苑
	～末梢静脈カテーテル関連血流感染防止対策～		LN
幸 直美	一緒に考えてみましょう	2008年7月31日	大分岡病院、大分東部病院大分豊寿苑
	Part1 MRSA 対策		LN
幸 直美	一緒に考えてみましょう	2008年9月25日	大分岡病院、大分東部病院大分豊寿苑
	Part2 CD 対策		LN
幸 直美	一緒に考えてみましょう	2008年10月30日	大分岡病院、大分東部病院大分豊寿苑
	Part3 結核対策		LN
幸 直美	2008年度のまとめ	2008年11月27日	大分岡病院、大分東部病院大分豊寿苑
			LN

2009 年度目標

医薬品の適正で効果的な採用及びその運用

2008 年度実績

平成 20 年 6 月 19 日開催

- ①新規採用医薬品について
- ②へパフラッシュ使用再開について
- ③削除候補医薬品について
- ④後発医薬品の実績報告

平成 20 年 9 月 25 日開催

- ①新規採用医薬品について
- ②院外処方専用薬について
- ③ATⅢ製剤の規格変更について
- ④後発医薬品への切替えについて
- ⑤「エレース®」の供給困難について

平成 20 年 12 月 25 日開催

- ①新規採用医薬品について
- ②常用医薬品の切替えについて
- ③院外処方専用薬について
- ④削除医薬品について

平成 21 年 3 月 26 日開催

- ①新規採用医薬品について
- ②院外処方専用薬について
- ③ 常用医薬品の切替えについて
- ④発医薬品の切替えについて

治験審査委員会

2009 年度目標：

- 1) 全ての被験者の人権、安全及び福祉を保護する。
- 2) 治験が GCP 省令に基づき適正かつ安全に計画されているか、また倫理的、科学的及び医学的妥当性の観点から治験の実施及び継続の可否を慎重に調査審議する。

2008 年度実績：

1) 第 38 回治験審査委員会開催（2008 年 4 月 28 日）

- 審議事項： ① 新たな安全性に関する情報についての審議： 6 件
② 治験実施計画書等の変更についての審議： 7 件
③ 治験継続の可否についての審議： 2 件
④ 重篤な有害事象に関する報告書についての審議： 1 件

2) 第 39 回治験審査委員会開催（2008 年 6 月 3 日）

- 審議事項： ① 新規治験受託の可否についての審議： 1 件
② 新たな安全性に関する情報についての審議： 4 件
③ 治験実施計画書等の変更についての審議： 5 件

3) 第 40 回治験審査委員会開催（2008 年 7 月 2 日）

- 審議事項： ① 新規治験受託の可否についての審議： 2 件
② 新たな安全性に関する情報についての審議： 7 件
③ 治験実施計画書等の変更についての審議： 5 件
④ 治験継続の可否についての審議： 1 件

4) 第 41 回治験審査委員会開催（2008 年 8 月 25 日）

- 審議事項： ① 新たな安全性に関する情報についての審議： 5 件
② 治験実施計画書等の変更についての審議： 6 件
③ 治験継続の可否についての審議： 1 件

5) 第 42 回治験審査委員会開催（2008 年 10 月 16 日）

- 審議事項： ① 新たな安全性に関する情報についての審議： 5 件

- ② 治験実施計画書等の変更についての審議 : 8件
 - ④ 治験継続の可否についての審議 : 1件
 - ⑤ 重篤な有害事象に関する報告書についての審議 : 1件
- 6) 第43回治験審査委員会開催(2008年12月3日)
- 審議事項 : ① 新たな安全性に関する情報についての審議 : 6件
 - ② 治験実施計画書等の変更についての審議 : 6件
 - ③ 治験継続の可否についての審議 : 1件
- 7) 第44回治験審査委員会開催(2008年1月20日)
- 審議事項 : ① 新規治験受託の可否についての審議 : 1件
 - ② 新たな安全性に関する情報についての審議 : 4件
 - ③ 治験実施計画書等の変更についての審議 : 5件
 - ⑤ 緊急の危険回避のための治験実施計画書からの逸脱についての審議 : 2件
 - ⑥ 治験継続の可否についての審議 : 1件
- 8) 第45回治験審査委員会開催(2009年3月17日)
- 審議事項 : ① 新たな安全性に関する情報についての審議 : 7件
 - ② 実施計画書等の変更についての審議 : 7件
 - ③ 症例追加についての審議 : 1件

臨床検査適正化委員会

概要

臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行う事を目的とする。

2009年度目標:

検査業界は検査点数改正の度に下降し、検査課もランチに変更する施設のある中、社会医療法人・二次救急病院検査室としての責務を果たすのは、院内スタッフであるからこそできる動きが沢山あります。研修に理解があり、症例に遭遇できる施設の中で医療従事者として働けることを今一度感謝し、絶え間ない自己研鑽と院内の「和」を尊重する。

診療支援として、必要項目の院内迅速検査への変更取り組みや、電子カルテ変更による画像取り込みなど更なる働きやすい環境へ飛躍できることを今年期待しています。

委員会メンバーの参加増加と意見交換を活発にできる雰囲気を作る。

2008年度実績:

開催回数: 12回

変更・改善内容

新規設備: 眼底写真機器(6月)ABI 検査機器 (3月)

新規項目: 便中ヘリコバクターピロリ抗原検査院内開始
: ATⅢ院内検査開始

改善:

4月: Creの結果値を小数点一桁から二桁に変更

アルブミン/クレアチニン比作成

東部病院細胞診検査結果入力には東部に出向き入力していたが、リモートにて入力可能となり労働時間の軽減と結果入力の迅速化

ホルムアルデヒドの2類への変更により、ホルマリン作成等検査室にて集中管理することにした。

5月: OP室での病理組織標本は検査室で24時間当直者がいるために、検査室で固定することにした。

5月: 迅速検査管理加算の請求達成率が低いために、看護サイドで請求できる対象者を医事課に解るように印鑑を押して協力してもらう

6月: QFT 検査結果スキャン表示から電子カルテ結果表示へソフト変更

6月 輸血前後感染症外注項目履歴表示がソフト変更にて可能となる
HIV表示は不可(個人情報保護のため)

7月: 採血時の試験管の取り扱い等説明スライド作成しNsへ説明する

8月: ATⅢ院内検査開始

- 8月：ホルター心電図所見依頼を主治医から循環器医へ対診依頼必要であったが、検査室より順番に循環器内科へお願いすることで所見完成までの運用がスムーズになった
- 9月：血液ガス検査依頼はチケットプリント用紙に手書きしていただいていたが、オーダーリングにて依頼変更した（結果用紙は検査課で記入する）
- 10月：患者さんへの検査結果説明書面作成する（Dr・Nsより手渡していただく）
各部署にも設置し自由にお取りいただく
病棟にも設置して入院患者さんにも利用していただく
- 10月：外来迅速管理加算はNs・医事の協力にて上昇してきた
- 12月：病棟自己血採血は頻度が少ないために、外来へ採血を依頼する
検査課から外来へ連絡します
- 3月：異常値報告についてDrへ直接連絡する

輸血療法委員会

概要：

輸血製剤の適正且つ有効に行われていたか検討・審議する事を目的とする。機関である。

2009年度目標：

安全なる輸血療法指針を遵守した輸血製剤の使用指導。

血液センターの統廃合・製剤不足等にて製剤供給も難しくなっています。予約依頼の周知徹底と緊急時対応がスムーズに行えるように人材育成！

FFP1.5倍量に変更の周知徹底。

待機的手術に関して自己血の推進と製剤保管の更なる安全への取り組みの継続。

当院独自のMSBOS（Mean Surgical Blood Order Schedule；平均手術準備量）

の定着化

善意ある方々の血液を有効に使用するために、院内廃棄率「0」を目標！

2008年度実績：

開催回数：12回

検討・改善内容

- ・製剤使用のトリガーとなるように毎月使用診療科名開示している。
- ・輸血記録書記入不備の啓蒙活動
- ・血液製剤以外の使用製剤（グロブリン等）の保存記録簿の混在中止
- ・FFPの内容容量が1.5倍の量となり、従来の依頼数の感覚の変更啓蒙活動
- ・オーダーリングの表示を1.5倍量表示に変更し、価格も表示した
- ・単位から使用量表示へ変更啓蒙活動開始
- ・PLT輸血セット変更（1ml 15滴→20滴）
- ・輸血管理料請求開始
- ・予約OP前依頼の製剤等で備蓄体制構築（緊急時の製剤確保のため）
- ・一度の血液型検査から最低二度の依頼確認の必要性啓蒙活動
- ・輸血副作用発生時の対応確認

2007年度使用実績(2008.4～2009.3)

- ・廃棄率1.84%（2007年1.78%）

製剤名 単位

- ・MAP 2053（2007年1848）
- ・自己血 63（2007年 61）
- ・FFP 701（2007年 762）
- ・アルブミン 3994（2007年2992）

褥瘡対策委員会

- *毎月第4金曜日、16時より委員会実施
- ・今月分の褥瘡状況報告

- ・Dr より、褥瘡状況及び院内発生分析
- ・マットの使用状況について
- ・火/週褥瘡ラウンド状況について
(中田 Dr・担当 NS・薬剤部・リハビリにて)

*平成 20 年 5 月 27 日 大分岡病院 4F 研修センターにて
第 3 回褥瘡ケア地域勉強会開催

講師：高田中央病院 野柳俊明先生

*平成 20 年 6 月 24 日同研修センターにて

院内褥瘡ケア勉強会開催

講師：RH 田中さん、モルテン（前田氏）より

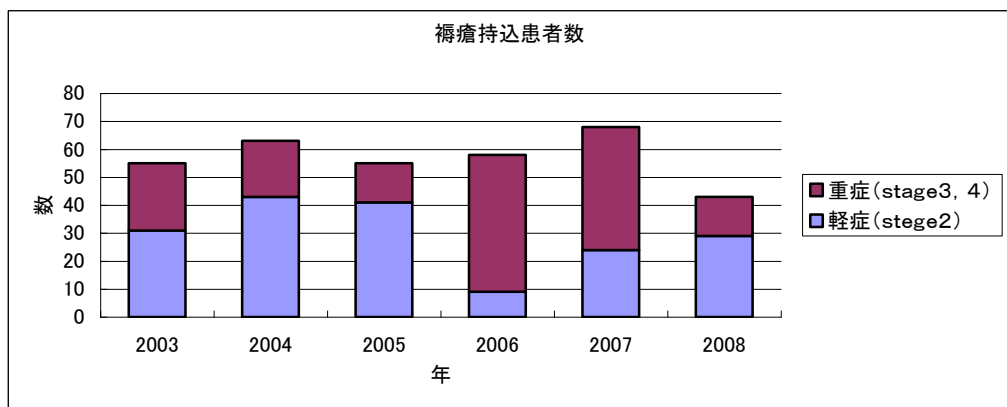
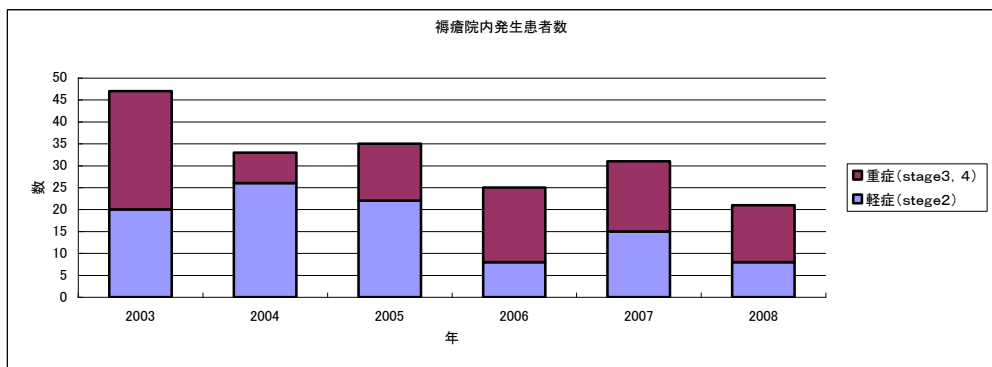
* マット台数のチェック

→委員会時、各病棟の使用状況を提出

*マット、体交枕の充実

→全病棟不足している状況あり、早急に対応してもらおう

褥瘡ケア地域勉強会や院内褥瘡ケア勉強会等の成果が少しずつ数字として現れ始め、2008 年は褥瘡持込患者数、院内褥瘡発生数ともに減少している。



事務部門

医事課

概要、構成、スタッフ：

医事課長 1 名、医事係長 1 名、外来部門 11 名（パート 1 名）、入院部門 5 名
歯科事務 2 名、労災、自賠責担当 1 名

2009 年目標

院外研修への積極的参加

診療報酬請求事務能力認定、介助士等の業務上必要な資格を取得

2008年度実績：

平均減点率 0.25%

サービス介助士資格取得（3名）

講演 講演/医事マネジメント研究会/平成20年9月20日/高宮

演題/200床規模地域支援病院の経営戦略～大分岡病院の取り組み～

実習生受入状況

2008年8月、大分医療事務専門学校（1名受入）

2009年2月、大分医療事務専門学校（1名受入）

総務・人事部

概要、構成、スタッフ：

人事・総務部長(法人本部統轄部長兼任)1名、人事・秘書課長1名、人事・秘書係長1名、
医局秘書1名、総務1名 合計5名

2009年度目標：

- 1)適正な人材の確保
- 2)職員教育の充実
- 3)目標管理と人事評価制度の定着
- 4)職場環境の改善活動の推進(TQM活動)

2008年度実績：

- 1)適正な人材の確保
 - 2008.6 臨床研修修了後進路説明会
 - 2008.7～9 H21年度新卒看護師の病院見学及び募集
 - 2009.3 医師臨床研修病院合同説明会
- 2)職員教育の充実
 - 2008.4～2009.3 教育・研修委員会を通じて、BLS研修、上級・中級・初級のレベル毎に研修を実施
 - 2008.4 接遇研修(初級者)
 - 2008.6 臨床倫理研修(上級者)
 - 2008.8 管理者研修(上級者)(コーチング・目標管理)
 - 2008.9 管理者研修(中級者)(コーチング・目標管理)
 - 2008.10～ TQM活動
 - 2008.12 臨床倫理研修(中級者)
- 3)資格等級別新賃金体系の確立
 - 2008.4～ 資格別等級別新賃金体系構築
- 4)職場環境の改善
 - 仕事と家庭の両立支援の取り組み
 - 男性の育児参加推進事業

講演

講演/南部地域労働講座/平成20年12月2日/県佐伯総合庁舎/武石

演題/仕事と家庭の両立支援の取り組み～ワーク・ライフ・バランスの実現～

購買物流部

概要、構成、スタッフ：

院内物品購入全般（購入・物流・管理・修理）

深田昌司（事務長・部長） 遠山文子（課長） 黒川 薫（合計3名）

2009年度目標：

コスト削減・医療材料標準化・医療機器の整備・医療機器安全管理
循環器・心臓血管外科 材料費5%削減（年間2,000万円）

2008年度実績：

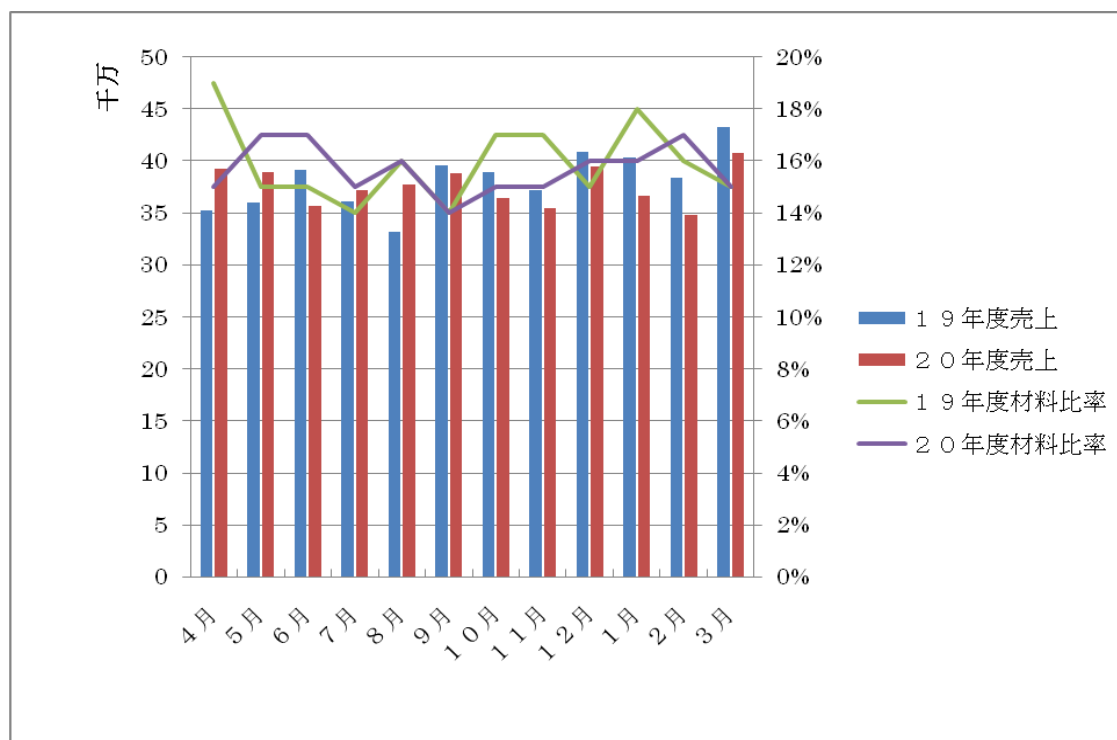
材料費、前年度売り上げ比率が15.9%から15.6%に削減（年間1,350万円削減）

商品変更によるコスト削減3,150,000円

【 商品変更によるコスト削減商品 】

- ・消毒薬付ドレープ
- ・人工蘇生用フィルター
- ・呼吸器回路フィルター
- ・人工鼻
- ・血糖測定器
- ・検診用シーツ
- ・留置針 など

	19年度売上	20年度売上	19年度材料比率	20年度材料比率
4月	352,051,000	391,342,000	19%	15%
5月	359,190,000	388,282,000	15%	17%
6月	391,142,000	356,114,000	15%	17%
7月	360,090,000	371,327,000	14%	15%
8月	331,262,000	377,017,000	16%	16%
9月	395,297,000	387,218,000	14%	14%
10月	388,250,000	364,146,000	17%	15%
11月	371,320,000	353,757,000	17%	15%
12月	408,012,000	393,691,000	15%	16%
1月	402,107,000	365,724,000	18%	16%
2月	382,726,000	347,636,000	16%	17%
3月	431,990,000	406,693,000	15%	15%
			15.9%	15.6%



2008年度実績：

診療情報提供件数（一般）

	件数	申請者				提供方法	
		本人	家族	保険会社	その他	診療録、フィルム	その他
2004年度	3	1	1	0	1	2	1
2005年度	55	14	7	31	3	34	21
2006年度	67	12	10	43	2	53	14
2007年度	131	57	30	40	4	48	83
2008年度	53	32	10	6	5	21	32

診療情報提供件数（公的機関）

	件数	申請者						使用目的		提供方法	
		警察	検察	裁判所	弁護士	労働基準監督署	その他	捜査・裁判関係	その他	診療録、フィルム	その他
2004年度	22	10	10	0	2	0	0	21	1	0	22
2005年度	16	9	3	0	1	1	2	12	4	2	14
2006年度	18	8	8	0	1	0	1	13	5	0	18
2007年度	16	6	5	2	0	2	1	13	3	1	15
2008年度	22	12	2	4	2	2	0	19	3	9	13

広報・マーケティング部

理念

- 1 公私各医療機関とのネットワークを構築し、地域連携を推進することによって、地域の皆さんによりよい医療・福祉・介護を提供します。
- 2 生命・個人の尊厳を重んじ、安心と信頼のある温かい相談援助を行ないます。
- 3 サービスの質向上のため知識・技術を常に研鑽します。

2008年度スタッフ

(医療連携チーム)

MSW・・・4名（6月より1名増員）

広報担当・・・1名

計・・・6名

(コールセンターチーム)

3名

2008年度目標

- 1 見える化の推進
- 2 院内・院外連携の強化
- 3 業務の効率化・スリム化

2007年度実績（医療連携チーム）

【はじめに】

医療連携チームは、ソーシャルワーカー業務、医療連携業務、広報業務を行っている。この3本柱を核とし、チーム医療の推進、地域医療連携の推進を行っている。

この報告書では、1. ソーシャルワーカー業務、2. 医療連携業務、3. 広報業務の活動報告を行う。

医療連携チーム2008年度キャッチフレーズ「ART active revolutionize team」

学会発表

2008/10/24 第12回病院広報事例発表会（藤島）

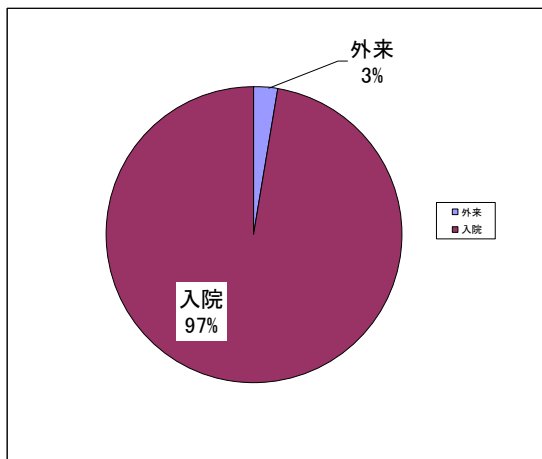
2008/11/8 日本医療マネジメント学会 第7回九州・山口連合大会（藤島）

2008/11/24 第26回大分県病院学会（福田）

2009/3/18 ケアマネ研修会（藤島）

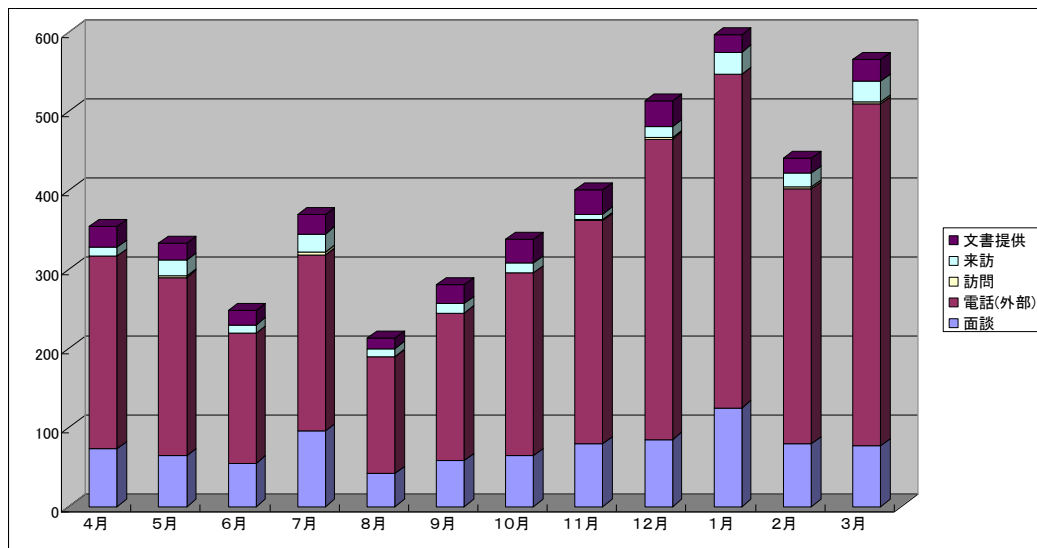
実績

1 ソーシャルワーカー業務



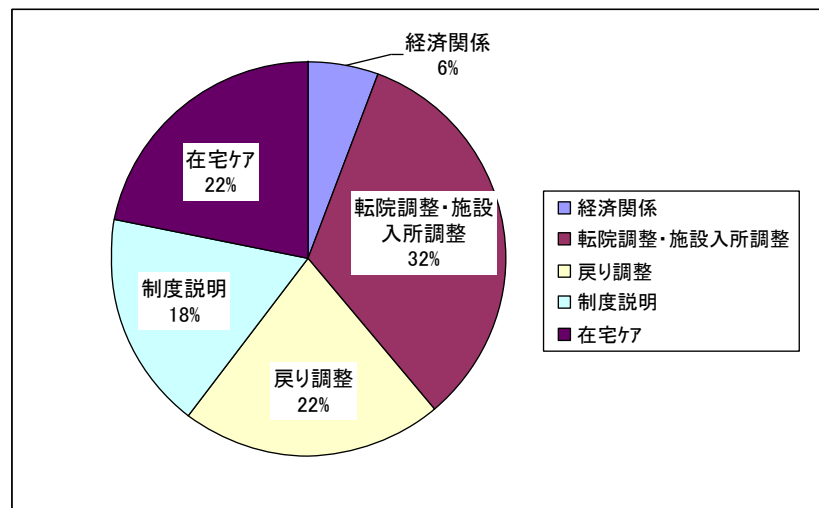
1) 2008年度の介入件数。

介入総数は766件（外来：21件、入院：745件、月平均：64件）となっており、4病棟、ICU、外来（透析を含む）を5名のMSWで担当している。



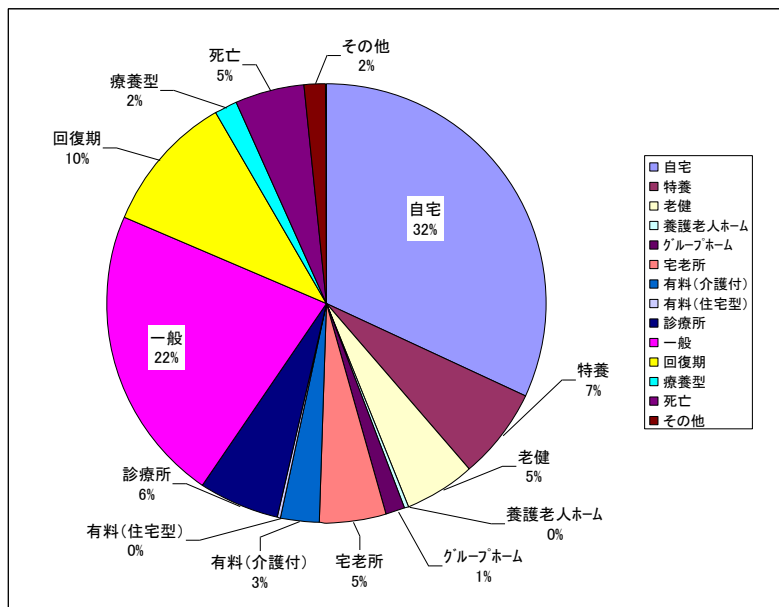
2) 相談方法

総数は、面談：897件、外部への電話連絡：3,262件、家屋評価同行などの訪問：15件、医療機関のMSW・担当ケアマネジャーの対応などの来訪：192件、フェイスシート・入院依頼書などの文書提供：288件。患者さん・ご家族への情報提供や制度説明だけでなく、病院・他の医療機関、在宅サービスとの調整の役割が大きいことがわかる。



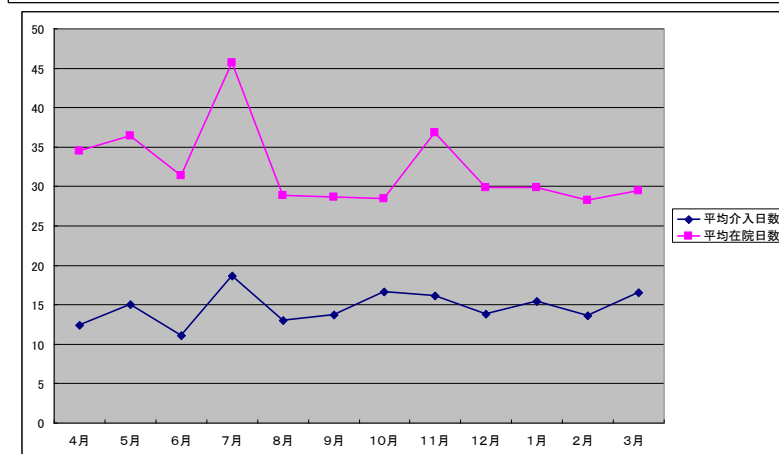
3) 相談区分

急性期という病院の機能上、転院や施設への退院調整、戻り調整が約半数を占めている。また在宅ケアにおいては、住み慣れた地域への退院を希望、また可能なかぎり勧めた場合の在宅サービスへの調整等も行っている。



4) 転帰先

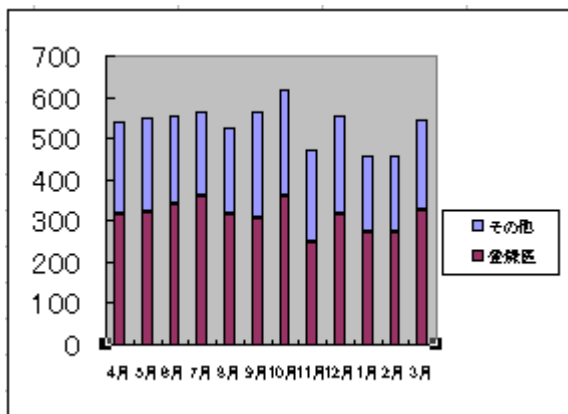
医療機関への転院が4割となっている。なかでも、回復期病棟等の転院要件に該当しない場合などは、医師、他のスタッフとの連携を図りながら、患者さんの状態に応じて転院調整を行っている。また施設については、実際に施設訪問を行い、患者さんへ情報提供を行っており、入所の運びとなったケースも多くある。



5) 介入ケースの平均在院日数と介入日数
平均在院日数は、32.33日。平均介入日数は、14.67日であり、平均在院日数の半分となっている。現在は、病棟担当制をとっており、毎朝の病棟カンファレンス、診療科ごとのカンファレンスなどで介入を開始している状況である。今後は、院外の研修会等にも今まで以上に参加し、他施設で活用されている調整シートや連携パス、また介入方法の見直し等の検討を行うことで、早期介入、早期調整はもちろん、患者さんの満足度向上を目指していけたらと考える。

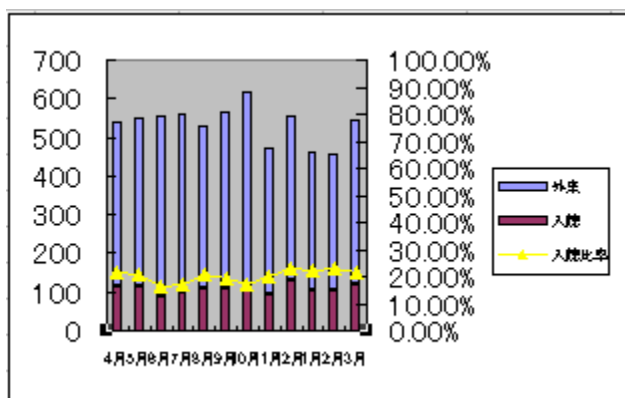
2 医療連携業務

1) 紹介総数 (2008年度)



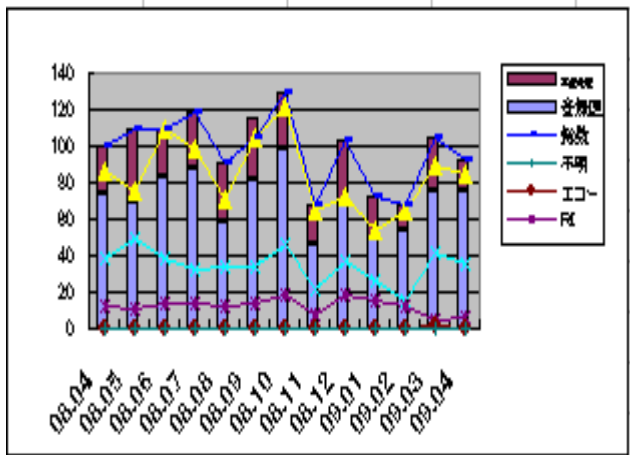
登録医からの紹介数・・・合計 3,746 件 月平均 312.2 件
登録医以外からの紹介数・・・合計 2,653 件 月平均 221.1 件
時期によって増減はあるものの、平均的に月 500 件の紹介を頂いている。
今後としては、登録医数の増大、非登録医への営業などが課題となってくる。

2) 紹介総数内訳

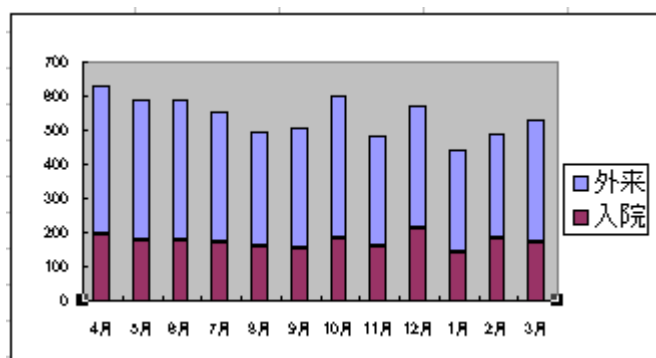


I : 外来/入院比率

入院加療依頼にて来院され、当日入院になった患者さん数・・・合計 1,284 件 月平均 107 件
外来にて加療を行った患者さん数・・・合計 5,116 件 月平均 426.3 件
当日入院となる患者さんの割合は月平均で 20.06%
入院に特化すべき急性期病院、地域医療支援病院としては、受け入れ態勢の整備ならびに長期化している入院患者さんの退院支援を促進することで、入院加療依頼の患者さんを増大し、医療連携をすすめていくことが必要となる。



3) 逆紹介総数



4) 登録医獲得数 (2008年度)

5 件の新規登録医獲得。

2008年度当初は130件であったが、登録医療機関の閉院等により現在の登録医数は133件となっている。

今後は、この133件の登録医の先生方に当院の取り組みを紹介し、理解し、地域連携を強固にしていくことが目標となる。

3 広報業務

活動内容

○ 院外広報誌 おかのかお 10号/年 (合併号含む)

平成19年6月1日より発行開始。

病院として「伝えたいこと」と、入院患者さん、来院者が「知りたいこと」の“バランス”を製作コンセプトとしている。「病院が伝えたいこと」に重点をおくのではなく、あくまで患者さんや地域の方々の視点から物事や表現方法を考え、伝えるようにしている。また、地域のお店紹介や活動、恒例行事を紹介するコーナーを設けることで、「広報」のみを目的とした広報誌ではなく“読み物”“としても魅力があるものを目指した。多くの読者が内容にしっかりと目を通し、大分岡病院、鶴崎のまちにより親近感と安心感を持っていただけるよう、患者さん(読者)の視点から製作している。また、平成20年6月よりデザインをリニューアルし、読者を飽きさせないための“変化”をつけた。常に新たなコンセプトを模索し、「見やすさ」を追求しながら広報誌を制作している。その結果平成20年10月に開催された第8回ヘルスケア情報誌コンクールにて「ペガサス賞(病院広報関係者が選ぶ最も優れた広報誌)」を受賞した。

○ 院内広報誌 敬和の環 12号/年

平成20年3月10日より発行開始。

情報共有、院内連携強化を目的とし、製作を開始した。各部署から発信できる情報を全職員に配布することで、院内連携を強化し、情報を共有することができる。院内には共有できる情報がたくさんあるが、そのための手段が確立されていなかった。各部署へアンケート調査を実施したところ、人事に関する情報について非常に関心が高いことが分かった。平成20年9月より“院内広報誌”から“法人広報誌”へリニューアルし、法人全体での情報共有を図った。今後も「共有しなければならない情報」を「敬和の環」から発信し、敬和会の未来・理想の姿を法人全体で統一する。

II : オープン検査紹介数

登録医からのオープン検査依頼数

総数 922 件 平均 76.8 件

非登録医からのオープン検査依頼

総数 356 件 平均 29.7 件

CT 検査依頼 : 総数 1098 件 平均 91.5 件

MRI 検査依頼 : 総数 448 件 平均 37.3 件

RI 検査依頼 : 総数 159 件 平均 13.3 件

放射線科のオープン検査数は平均で100件程度となっている。CT、MRIなどは高性能の機械が入っており、RI検査などは検査可能な施設が少ないため、営業次第ではまだまだ数の増大が見込める。

登録医への逆紹介

総数 3,701 件 月平均 208.42 件

非登録医への逆紹介

総数 2,740 件 月平均 228.33 件

登録医からの紹介数より逆紹介数のほうが多いことがわかる。今後も患者さんを地域の先生方にフォローしていただける体制・環境作りが必要となってくる。

○ OBS ラジオ 耳よりホームドクター

平成19年10月より放送開始

過去(2008年度)の放送内容

平成20年4月

- 6日(木)「口腔ケアとは」 麻生氏
- 13日(木)「無歯顎の問題点」 松本Dr
- 20日(木)「All-on-4とは」 平野Dr
- 27日(木)「咬合育成とは」 小椋Dr

平成20年5月

- 1日(木)「心血管センター概要」 迫Dr
- 8日(木)「冠動脈・ローターブレード治療」 立川Dr
- 15日(木)「エキシマレーザー血管形成術」 立川Dr
- 22日(木)「アブレーション治療」 宮本Dr
- 29日(木)「心臓再同期療法・埋め込み形除細動器」 永瀬Dr

平成20年6月

- 6日(木)「がんとの上手なお付き合い」 下田Dr
- 12日(木)「腹腔鏡手術とは」 岡田Dr
- 19日(木)「乳がんの早期発見」 高司Dr
- 26日(木)「産婦人科における助産師の役割」 槇野Ns 右田Ns

平成20年7月

- 3日(木)「夏場のヘルシーレシピ紹介」 金澤氏
- 10日(木)「後期高齢者医療制度とは」 高宮氏
- 17日(木)「医療安全への取り組み」 山口Dr
- 24日(木)「形成外科とは」 古川Dr
- 31日(木)「創傷ケアセンターの取り組み」 澁谷Dr

平成20年8月

- 7日(木)「現在の小児医療」 立花Dr
- 14日(木)「病児保育センター ひまわり」 甲斐氏
- 21日(木)「サイバーナイフとは1」 内田Dr
- 28日(木)「サイバーナイフとは2」 内田Dr

平成20年9月

- 4日(木)「地域リハビリテーションとは」 山田氏
- 11日(木)「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割」 入口氏、田中氏、羽田氏
- 18日(木)「Think global Act local～大分岡病院にできること～」 岡 敬二Dr
- 25日(木)「ナースプラクティショナー～医師不足の現状と解決～」 葉玉Dr

平成20年10月

- 2日(木)「メタボリックシンドロームと特定健診」 松川氏
- 9日(木)「狭心症と心筋梗塞」 永瀬Dr
- 16日(木)「心臓病の検査」 佐脇氏
- 23日(木)「狭心症・心筋梗塞の治療」 宮本Dr
- 30日(木)「心臓リハビリテーションと心臓病の予防」 西山氏

平成20年11月

- 6日(木)「噛めない 悩み」 平野Dr
- 13日(木)「顎の変形と関節の 悩み」 小椋Dr
- 20日(木)「笑えない・息が漏れる 悩み」 小椋Dr
- 27日(木)「無歯顎への治療～All-on-4～」 松本Dr

平成20年12月

- 4日(木)「人間ドックとは」 竹中氏
- 11日(木)「糖尿病とは」 重光Dr
- 18日(木)「癌の早期発見と治療」 下田Dr
- 25日(木)「マンモグラフィー検査」 高司Dr

平成21年1月

- 1日(木)「顎変形症とは」 松本Dr
- 8日(木)「人工歯根～インプラント治療～」 松本Dr
- 15日(木)「食育とは」 小椋Dr
- 22日(木)「歯周病のセルフケア」 麻生氏
- 29日(木)「口の機能」 柳澤Dr

平成21年2月

- 5日(木)「睡眠時無呼吸症候群」 重光Dr
- 12日(木)「癌についての耳より情報1」 下田Dr
- 19日(木)「癌についての耳より情報2」 下田Dr
- 26日(木)「胃癌の内視鏡的治療(ESD)」 日野Dr

平成21年3月

- 5日(木)「若手医師育成への取り組み」 立川Dr
- 12日(木)「心血管センター医師育成システム」 竹林Dr
- 19日(木)「心血管センター診療の実際」 金子Dr
- 26日(木)「医師臨床研修制度の実際」 石川Dr 高山Dr

○ メールマガジン(医療従事者向け) 2回/週

○メールマガジン(一般向け) 12回/年

新聞・広告・名刺広告・雑誌掲載内容

【新聞】

平成20年4月6日 読売新聞「病院の実力 心臓外科手術」

【雑誌(フリーペーパー)】

平成20年5月15日 月刊kokutai 「初期臨床研修医募集」

平成20年6月14日 月刊kokutai 「初期臨床研修医募集」

平成20年7月15日 月刊kokutai 「初期臨床研修医募集」

平成20年8月1日 TOWCON MAGAZINE 「子育て応援 病児保育センター ひまわり」

平成20年9月20日 子育て応援マガジン クレセール「こどもの口に異常が起きている」

平成20年11月20日 子育て応援マガジン クレセール「予防接種に行こう」

平成21年1月1日 CLINIL BAMBOO 「医療連携対談」

平成21年1月20日 子育て応援マガジン クレセール「ママ、あせらないで!“食育”からみた離乳食実践」

平成21年3月20日 子育て応援マガジン クレセール「ご存知ですか?乳幼児医療費助成制度」

平成21年5月20日 子育て応援マガジン クレセール「赤ちゃん～こども時代はスキンケアが大切です!!」

ホームページ管理・更新・制作

<http://www.oka-hp.com/> (大分岡病院)

<http://www.gakuhenkei.jp/> (マキシロフェイシャル・ユニット)

<http://www.oka-hp.com/sinryou/sin-kekkan.html> (心血管センター/心臓血管外科)

コールセンターチーム 事業報告

(2008年度キャッチフレーズ)

HAPPILY ～幸福～

Heart ～心

Polite ～積極性

Parallel ～対応

Important ～大切

Lucent ～輝き

Youthful ～元気

(出張報告)

2008/7/8～9 山本 NTT関東病院見学 メディカルコンソーシアム参加 (インプレッショントレーニング)
東京警察病院見学

2008/7/19～20 山本 接遇インストラクター養成講座 (上級) 受講

2008/12/7 山本 メディカルアシスタント認定講座受講

2008/9/19～21 奥村 クレーム対応セミナー受講

(資格取得)

山本：接遇インストラクター (上級) メディカルアシスタント

(主な業務内容)

予約関連業務

- ・CPAP 患者フォロー
- ・外来休診の管理
- ・オープン検査予約
- ・コールセンター電話件数等の集計
- ・コールセンターブログ発信 (交代制) (1回/週)
- ・コールセンター院内報発信 (交代制) (1回/月)
- ・透析患者の予約入力
- ・月報の入力
- ・救急車来院集計
- ・紹介加算確認、再確認、救急車ででの来院の確認
- ・循環器患者受診管理
- ・マキシロに関する電話内容、電話本数の集計

(実績)

